平成２８年度

年　　報

市立大町山岳博物館

平成 28 年度の活動から

館 長　鳥羽 章人

平成 28 年度の大きな事業として、昨年度、恩賜上野動物園と富山市ファミリーパークがニホンライチョウ創始個体(卵)を導入し飼育を開始したのに引き続き、本年度は大町山岳博物館も加わり、乗鞍岳よりニホンライチョウ創始個体(卵)をそれぞれ４個の計 12 卵を採卵し、３園館によるニホンライチョウ飼育事業を開始いたしました。大町山岳博物館では 12 年ぶりに念願のライチョウ飼育を再開することができました。年度末にはスバールバルライチョウ３羽(メス３羽)、ニホンライチョウ３羽（オス２羽、メス１羽）の飼育を手掛けておりますが、12 月 10 日にはニホンライチョウの逸失事故を起こしてしまい、環境省や日本動物園水族館協会を始め、関係の皆様に多大なご迷惑とご心配をお掛けいたしました。逸失したのはオス・メス各１羽でありましたが、関係の皆様の懸命な捜索によりオス１羽は当日無事保護することができました。この場をお借りし関係の皆様にたいしお礼とお詫びを申し上げます。

また、平成 26 年度より信州大学、長野県環境保全研究所、立山カルデラ砂防博物館と山岳博物館が中心となり学術調査団を組織して実施してきた鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査では、雪渓の残雪状況や度重なる天候不順等の悪条件により困難を極めましたが、平成 28 年度には地質地形調査を残し全ての調査が終了しました。学術調査団は本年度をもって解散といたしましたが、今後、早い段階で氷河であることが正式に認められる期待が高まっている状況です。

教育普及事業では、企画展として「鹿島槍ヶ岳カクネ里氷河への道のり」を 6 月 11 日～8 月 28 日、「雷鳥～四季を纏う神の鳥～高橋広平写真展」を 9 月 3 日～11 月 27 日に開催するとともに、各企画展においてミュージアムトーク等の関連事業も行い、参加者は延べ 10,827 人を数えました。また、2 階展示室入口に設けた「さんぱく研究最前線」のコーナーでは学芸員・専門員・指導員や博物館に関係する研究者のホットな情報を３ヵ月周期にて発信いたしました。

教育普及活動では、恒例の「ふぞくえんまつり」「さんぱくこども夏期だいがく」等の開催、山博友の会との共催による「山の歴史ウォーキング」など 6 つの企画を実施する一方、学校との連携・融合では理科や社会科の授業やキャンプ学習のプログラム等の課外活動の実施、収蔵資料の貸し出し、『山と博物館』の毎月発行、各種観察会や各集会への共催・協力とともに、問い合わせに対するレファレンス活動を行いました。

また、このほかにも職業体験学習や総合的な学習などを受け入れる等、延べ 1,050 人の児童・生徒と博物館との関係を築くことができ、出張講座にも積極的に出かけることで延べ 436 人の方々に博物館からの情報を発信することができました。

調査研究事業では、ライチョウ飼育技術確立の研究や高山植物の生活史調査、後立山連峰周辺の登山史に関する調査研究のほか、信州大学山岳科学研究所、長野県環境保全研究所、立山カルデラ砂防博物館との共同研究による鹿島槍ヶ岳カクネ里雪渓(氷河)調査、長野県環境保全研究所との協力協定による温暖化調査等を行いました。

資料の収集保管事業では、山岳関係の資料を中心に個人・団体から数多くの資料を寄贈いただきましたが、寄贈以外にも購入による収集を化石・鉱物を中心に計画的に進めてまいりました。

動植物飼育栽培繁殖事業では動物の個体の健康管理と植物の維持管理をして、観覧者に見学していただく一方、傷病鳥獣の救護については、ライチョウ飼育等への影響を考慮し、新規の受け入れを断念致しました。また、付属園の目的を達成するため、付属園整備計画やライチョウ保全計画の動向を見極めながら、ライチョウ舎の建設等の施設整備として平成 29 年度ライチョウ舎の増設に先がけ、用地確保のための工事を実施するなど準備を進めたところです。

また、本年度は長野県と連携を図りながらライチョウサミット第 17 回ライチョウ会議長野大会を大町市文化会館を中心として開催することができました。各種関連事業を含め 740 人の参加があり、ライチョウ保護への気運を高めることができたものと考えております。

以上、平成 28 年度も大きな事業が重なり業務量は膨大なものとなりましたが、事業を推進するにあたり、大町市民をはじめ、関係機関の皆様には大変お世話になりました。書面をお借りし深くお礼申し上げます。

Ⅰ　資料収集・保存管理事業

1　資料収集

(1) 新規収集資料

平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日の間に、寄贈または購入・製作によって次の資料を収蔵した。

① 寄贈による収集資料

内訳は、山岳資料、山岳図書資料、民俗資料（人文科学系）10 件 610 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	寄贈者	住　　所
1	5 月 3 日	山岳図書資料（山岳第 51 年他）	259 点他一式	個人	東京都板橋区
2	6 月 3 日	山岳資料（写真複写デジタルデータ 5 点記録 CD）	1 点	個人	愛知県名古屋市
3	8 月 3 日	山岳資料（槇有恒関係書簡等）	一式	個人	長野県大町市
4	9 月 2 日	山岳資料（アンナプルナの石）	1 点	個人	群馬県桐生市
5	10 月 9 日	民俗資料（ワカンジキ）	1 点	個人	広島県広島市
6	11 月 2 日	山岳図書資料（アルプ）	301 点	個人	群馬県高崎市
7	12 月 24 日	美術資料（畦地梅太郎作木版画）、山岳図書資料（畦地梅太郎版画集）、山岳資料（門田製ピッケル他）	計 5 点他	個人	東京都立川市
8	12 月 27 日	山岳資料（写真帳）	9 点	個人	神奈川県秦野市
9	1 月 18 日	山岳図書資料（THE MOUNTAIN WORLD 1956/57 他）	15 点	個人	福岡県福岡市
10	3 月 3 日	山岳図書資料（山 研究と随想他）	16 点	個人	神奈川県横浜市

②購入・製作による収集資料

内訳は、化石資料 13 点、山岳資料 1 点、図書資料 16 点である。

No.	受入日	資　料　名	数量	金額	入　手　先
1	4 月 18 日	書籍『ツンドラ・サバイバル』	1 点	2,592 円	購入：塩原書店
2	4 月 21 日	山岳資料(牧野富太郎書簡 志村烏嶺宛) 1 セット(4 冊)	1 点	300,000 円	購入：合名会社森井書店
3	4 月 21 日	書籍『鳥瞰図譜日本アルプス』	1 点	6,000 円	購入：合名会社森井書店
4	5 月 18 日	書籍『日本産花粉図鑑』第二版	1 点	18,000 円	購入：塩原書店
5	6 月 10 日	書籍『博物館のひみつ』	1 点	3,240 円	購入：塩原書店
6	7 月 24 日	アンモナイト化石（ノジュール）	1 式	13,630 円	購入：㈱ヴァイス
7	7 月 24 日	アンモナイト化石（ゴニアタイト）	1 点	24,700 円	購入：㈱ヴァイス
8	7 月 24 日	鉱物・化石標本セット	1 式	17,420 円	購入：㈱ヴァイス
9	7 月 24 日	鉄隕石標本	1 点	27,250 円	購入：㈱ヴァイス
10	8 月 18 日	書籍『動物園のつくり方』	1 点	4,500 円	購入：塩原書店
11	11 月 14 日	書籍『見る 撮る 描く 絶景の山　北アルプス』	1 点	2,057 円	購入：塩原書店
12	11 月 26 日	書籍『鳥類学用語集』	1 点	3,672 円	購入：塩原書店
13	11 月 26 日	書籍『The Wild Mammals Japan Second edition』	1 点	7,560 円	購入：塩原書店
14	11 月 26 日	書籍『行動生物学辞典』	1 点	10,260 円	購入：塩原書店
15	11 月 26 日	書籍『野生行動管理システム』	1 点	5,184 円	購入：塩原書店

16	11 月 26 日	書籍『日本のネズミ』	1 点	4,536 円	購入：塩原書店
17	11 月 26 日	書籍『ニホンカモシカ』	1 点	5,724 円	購入：塩原書店
18	11 月 26 日	書籍『日本の野鳥「羽根」図鑑	1 点	7,560 円	購入：塩原書店
19	11 月 26 日	書籍『日本の希少鳥類を守る』	1 点	3,780 円	購入：塩原書店
20	12 月 28 日	石質隕石標本	1 点	27,700 円	購入：㈱ヴァイス
21	12 月 28 日	鉄隕石標本	1 点	27,700 円	購入：㈱ヴァイス
22	12 月 28 日	トンボ化石標本	1 点	27,500 円	購入：㈱ヴァイス
23	12 月 28 日	アンモナイト（セラタイト）化石標本	1 点	27,300 円	購入：㈱ヴァイス
24	12 月 28 日	アンモナイト（キマトセラス）化石標本	1 点	25,700 円	購入：㈱ヴァイス
25	12 月 28 日	自然硫黄鉱物標本	1 点	25,750 円	購入：㈱ヴァイス
26	12 月 28 日	玄武岩中の橄欖岩	1 点	25,000 円	購入：㈱ヴァイス
27	12 月 28 日	サイの歯化石標本	1 点	21,000 円	購入：㈱ヴァイス
28	12 月 28 日	シカの指化石標本	1 点	20,000 円	購入：㈱ヴァイス
29	3 月 14 日	書籍「日本の野生植物」４	1 点	23,760 円	購入：塩原書店
30	3 月 14 日	書籍「日本の野生植物」５	1 点	25,920 円	購入：塩原書店

2　資料保存管理

(1) 収蔵資料

①自然科学系資料

分類名および点数		自然科学系　　合計　15,423 点	
菌類（液浸標本）	129 点	哺乳類（剥製・骨格標本）	242 点
蘚苔類（乾燥標本）	674 点	鳥類（剥製標本）	662 点
維管束植物（液侵標本）	7 点	昆虫（標本ドイツ箱）	258 点
維管束植物（さく葉標本）	＊6,000 点	昆虫（未標本作製資料を含む）	＊4,600 点
魚類（液浸標本）	62 点	昆虫（液浸標本）	27 点
両生爬虫類（液浸標本等）	72 点	その他液浸標本(調査研究資料)	103 点
貝・甲殻類（液浸標本）	13 点	岩石・化石	2,574 点

②人文科学系資料

分類名および点数		人文科学系　　合計　10,245 点	
山岳	8,257 点	寄託（山岳、美術）	610 点
民俗	937 点	（寄託内訳）	
美術	228 点	個人寄託　361 点※	
美術（尾竹正躬関係）	201 点	※うちﾋﾟｯｹﾙ関係　93 点	
歴史	12 点	団体寄託　249 点	

③本館図書室に収蔵されている自然科学系図書資料

分類名および点数		自然科学系	6,174 点
自然科学系一般図書資料	5,956 点	自然科学系一般ＡＶ資料	218 点

④山岳図書資料館に収蔵されている人文科学系図書資料

分類名および点数		人文科学系	31,071 点
人文科学系一般図書資料	24,532 点	人文科学系一般ＡＶ資料	260 点
山岳資料としての図書資料（注[1]）	6,279 点		

（注[1]）④記載の山岳資料としての図書資料点数は、②記載の人文科学系の山岳資料点数に含む。

⑤収蔵資料の点数

総計 62,913 点（平成 29 年 3 月 31 日現在）

⑥現状と課題

現状として資料収集の方法は、主に相手方からの資料寄贈・寄託の申し出に依存している状況である。購入等の方法を含め、中長期を見据えた主体的・積極的な資料の収集計画を今後検討したい。

一方、昭和 26 年の開館以降、長期間にわたって未整理・未登録のままの資料が多数あり、それらの整理・登録作業を計画的に進めている。

また、資料の保管にあたっては、害虫の進入を防ぐための忌避剤やフェロモントラップで被害を防止するなど強化するほか、収集にあたっては、標本についた虫卵などを死滅させるための冷凍処理器の導入などを今後、検討したい。

a. 自然科学系

平林国男氏から寄贈のあった資料について、登録作業を開始した。資料数が多いため、内容確認を行い、作業終了後に目録を作成し、管理する予定である。

未整理であった植物さく葉標本の同定作業の同定を終了した。平成 28 年 7 月からは、大町山岳博物館友の会サークル「花めぐり紀行」のメンバーに台紙へのマウント作業を依頼し、2000 点余りの登録および配架が完了した。

b. 人文科学系

山岳博物館では、これまで収蔵資料の目録が整備されていない状況であったため、一昨年度、資料の収集・整理、保管の推進を重点事業に位置付けて事業実施に取り組んだ。人文科学系収蔵資料については、各分類における資料整理用紙の内容をすべてエクセルデータ化し、資料情報のデジタル管理が可能となった。これにより、パソコン上での資料情報の一元管理ができ、館内での事務処理や照会対応の業務において、担当職員による検索や閲覧等格段に容易となっている。さらに、館外からの資料情報の閲覧を可能とするために、これらのデータをもとにし、人文科学系の収蔵資料目録を作成している。目録を一般に公開することで、当館の資料コレクション管理だけでなく、博物館利用者による調査研究や教育普及といった面において、収蔵資料の利活用につながると考え、昨年度、目録を当館公式ホームページ上に掲載し、公開を行った。公開する目録については PDF データとし、ホームページ制作委託業者によるメンテナンスにあわせて、最新のデータに毎年更新。

平成 24 年度の山岳図書資料館設置に伴い、その前後の年度において業務量が格段に増加した。具体的には、寄贈等によって受け入れる資料点数の平均が年間で 8 倍強、年間で実施する資料整理・登録点数の平均が 14 倍となっている。山岳図書資料館オープン準備時の大規模な資料整理・登録業務は平成 23・24 年度で終了しているが、それ以降も、山岳図書資料を含む人文科学系資料の総計としては、年間 600～800 点程度の寄贈を受けており、毎年継続的に相当量の資料整理・登録作業の必要性が生じ、現在も担当学芸員と事務員を兼務する資料整理員によって通年での作業を継続している。登録博物館として博物館法に定める事業を実施していくなかで、資料収集・保管は基礎的な事業に位置付けられており、博物館活動を行う上で、資料整理・登録業務は常時継続的に実施していくことが求められる。しかしながら、資料整理作業が追い付いていない状況にある。昭和 26 年の開館以降の未整理資料を含め、年度ごとに計画的・効率的に集中して整理作業を完遂させたい。

(2) 保存管理

なお、山岳図書資料館への資料搬入には、本年度も事前に浸透性の高いフッ化スルフリル系製剤（ヴァイケーン薬剤）により 24 時間の包み込み燻蒸を行った。併せて大町市文化財センターより依頼のあった市内古文書や歴史・民俗資料も燻蒸を行なっている。

Ⅱ　調査研究事業

1　調査研究

(1) カクネ里雪渓（氷河）調査（担当：西田均）

大町市と信州大学との間で結ばれている包括的な連携協定の基本的精神を踏まえ、共同研究契約を締結し市立大町山岳博物館、信州大学理学部、長野県環境保全研究所、富山県立山カルデラ砂防博物館の４者が参画した「カクネ里雪渓（氷河）学術調査」は、異常とも言えるような気象状況に翻弄され続け、当初見込みを上回る 3 ヵ年度が経過しました。

この間、平成 27 年度にカクネ里雪渓下の氷体流動、氷河氷存在を確認。平成 28 年度には春から秋における気象データの取得とアプローチであるシラタケ沢での地形地質調査の実施、中遠見山からの雪渓消長のデータ蓄積などが実施できました。秋期に予定していたカクネ里内での地形・地質調査はシラタケ沢の万年雪の稀に見る融解状況での危険度増大により、多人数での入山は見送り精鋭山岳ガイドによる残置物回収と、氷体・河床が大きく露出したカクネ里雪渓周辺の撮影にとどまり、研究者によるカクネ里現地での地形・地質調査は実施することは又も叶いませんでした。このため、来年度において地形・地質の現地調査を実施し、今回のカクネ里雪渓（氷河）学術調査に一定の区切りをつけることとしています。

また、年度内早期の提出を予定していた学術論文は、秋期調査同様に稀に見る小雪、高温、降雨による各所での氷河氷の露出や大規模ムーランの出現など調査活動の増加から年度切換え時期での論文提出となりました。

なお､調査団については平成 28 年度をもって解散とし､平成 29 年度以降は必要に応じた情報共有、共同研究といった形で研究補完をして行くこととしています。

①調査団体制

組織名称		カクネ里雪渓（氷河）学術調査団
代表者（団長）		小坂共榮（山博顧問・信州大学山岳科学研究所特任教授）
副代表者（副団長）		飯田肇（富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課長） 鈴木啓助（信州大学理学部教授）
構成団体	市立大町山岳博物館	千葉悟志学芸員、宮野典夫指導員、西田均指導員
	信州大学理学部 信州大学山岳科学研究所	小坂共榮 特任教授、鈴木啓助 教授、原山智 教授、 朝日克彦 山岳科学研究所助教
	長野県環境保全研究所	富樫均専門研究員、浜田崇主任研究員、尾関雅章研究員
	富山県立山カルデラ砂防博物館	飯田肇学芸課長、福井幸太郎主任学芸員
事務局（会計・契約等事務局）		信州大学理学部
事務局（調査・調査団事務局）		市立大町山岳博物館

②平成２８年度　カクネ里雪渓調査 調査団経過報告

4 月 1 日～	企画展監修業務、報告会周知業務開始（前年度より継続）
4 月 7 日	企画展共催、後援依頼発送
5 月 11 日	企画展資料受取り（千葉県立中央博物館）　9 月 13 日返却
5 月 13 日	中部山岳国立公園特別保護地区内工作物（気象観測装置）、土石採取許可申請提出　6 月 10 日許可
5 月 24 日	日本地球惑星科学連合（千葉幕張メッセ）学会発表
5 月 25 日	企画展資料受取り（富山県立山カルデラ砂防博物館）9 月 6 日返却
5 月 26 日	カクネ里入山のためのガイド打合せ
6 月 10 日	国有林野使用許可申請提出（気象観測装置・幕営）6 月 17 日許可
6 月 11 日～ 8 月 28 日	調査団監修　企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里 氷河への道のり」開催 団員によるミュージアムトーク　6 月 11 日、7 月 10 日、8 月 11 日 期間中入館者数　5,930 名

6 月 13 日～14 日	カクネ里アプローチ偵察　ガイド入山
6 月 14 日	信州大学打合せ（アプローチ偵察関連）
6 月 17 日	入山前最終打合せ
6 月 18 日～20 日	カクネ里内気象観測装置設置、シラタケ沢地形地質調査 団員 3 名等計 11 名
7 月 10 日	第 1 回調査団会議
7 月 10 日	学術調査団報告会　サン・アルプス大町　　130 名（調査団主催）
9 月 1 日	中遠見山定点カメラ設置
10 月 1 日	日本雪氷学会（名古屋大学）学会発表
10 月 13 日～14 日	秋季入山ルート　シラタケ沢側偵察
10 月 15 日	秋季入山ルート　大川沢側偵察
10 月 19 日～21 日	気象観測装置・流動測定ポール等撤収作業　　ガイドのみ 3 名
10 月 20 日・21 日	撤収作業隊の安全確保のため無線中遠見山入山
11 月 8 日	中遠見山定点カメラ回収
11 月 15 日	国有林野返地届提出
1 月 30 日	第２回調査団会議
3 月 31 日	カクネ里雪渓（氷河）学術調査団　解散

(2) 高山植物の生活史に関する研究（担当：千葉悟志）

本年度は、7 月 14 日～16 日に針ノ木岳において、ヨツバシオガマおよびエゾシオガマに訪花する昆虫相の調査を実施した。7 月 19 日～22 日に烏帽子岳において、ミヤマコゴメグサおよびイワギキョウに訪花する昆虫相の調査を実施した。調査には、大町山岳博物館友の会会員に協力いただいた。

(3) 後立山連峰周辺の登山史に関する資料調査（担当：関悟志）

当館では、平成 20 年度から後立山連峰で繰り広げた近代を中心とした登山史（登攀史を含む）について、文献資料の調査・収集を進めている。あらためて文献資料を調査・収集し、現存する報告記録などを読み直すことによって、後立山連峰で展開された登山史とその意義を考察する必要があると考えてのことである。とりわけ欠くことのできない重要な文献資料を中心に翻刻して収録した冊子『北アルプス登山史資料集』をこれまでに 2 編発行している。その完結編として、黒部川側からと後立山南部地域登山史について収録した資料集の発行（平成 29 年 3 月）を目指し、関係する主な文献の資料調査を行った。なお、資料集編集にかかる翻刻作業については、大町山岳博物館友の会サークル「山岳文化研究会」会員有志に協力をいただいた。

(4) 登山史資料集発行に向けた現地調査（担当：関悟志・清水隆寿）

山岳博物館では、後立山連峰を中心とした北アルプスの登山史にかかわる文献資料を収録した資料集を、これまでに平成 22 年度（第 1 集・鹿島槍ヶ岳周辺の登山史）と平成 24 年度（第 2 集・白馬岳周辺の登山史）と 2 回にわたって発行してきた。平成 28 年度、それらの完結編として、黒部川側からの登山史と後立山南部地域登山史に関する文献資料を収録した資料集(第 3 集)を発刊した。

資料集の発行に向けて、下記の関係山域にて記録調査を実施した。この調査では、資料集でとりあげる山域の現地調査を行い、現地の様子を確認して撮影記録することで、資料集の巻頭に掲載する参考写真に供した。

後立山南部地域方面：平成 28 年 8 月 30 日（火）・31 日（水）・9 月 1 日（木）・2 日（金）

黒部川方面：平成 28 年 10 月 3 日（月）・4 日（火）・5 日（水）

(5) 爺ヶ岳におけるライチョウ生息域内の山岳気象観測（担当：佐藤真）

平成 22 年 9 月 22 日よりライチョウの生息域である爺ヶ岳に温度・湿度・日射量を計測するデータロガーを設置して観測を継続している。平成 27 年 9 月から平成 28 年 9 月までの年間の最高気温は、平成 28 年 8 月 6 日 9 時 50 分の 23.11℃、最低気温は、平成 28 年 1 月 24 日 20 時 40 分の-22.28℃

であった。

得られたデータを広く活用していただくために、長野県環境保全研究所の浜田崇研究員と共著で市立大町山岳博物館研究紀要第 2 号に 2010 年から 2016 年の気象観測結果を資料として投稿した。

(6) ライチョウの飼育・増殖技術確立を目指した研究（担当：佐藤真）

ニホンライチョウ及びスバールバルライチョウにおける基礎調査として、飼育舎内における年間を通した温度・湿度・紫外線強度・日照度の測定を継続している。また、定期的な体重測定、採餌量の測定、換羽した羽の枚数の測定を行っている。

本年度より飼育を開始したニホンライチョウについて、「雛の成長様式」と「飼育者の有無による雛の利用空間の変化」に関する調査を行い、市立大町山岳博物館研究紀要第 2 号にて報告した。

その他、両亜種に関する研究として、ライチョウ類飼育園館、日本獣医生命科学大学、京都府立大学と連携を行いながら共同研究を進めている。今後も関係機関と連携を図り、ライチョウの保全事業に必要と考えられる調査研究を行っていく。

両亜種の飼育に関する詳細については、P30 のⅣ動植物飼育栽培繁殖事業を参照のこと。

Ⅲ　教育普及事業

1　展示

(1) 常設展示

メインテーマを「北アルプスの自然と人」とし、「自然と人とが共生する山岳文化」を山岳博物館からのメッセージとして伝える。

①展示テーマおよび展示資料点数　総計 1,088 点（平成 29 年 3 月 31 日現在）

内訳（自然科学系　合計 531 点、人文科学系　合計 557 点）

展示テーマ	資料点数※1	展示テーマ	資料点数※1
3階　展示室　「あなたと山のかかわり 展望ラウンジ」ゾーン			計 104 点
大町のプロフィール	24 点	大町の空からマップ	1 点
後立山連峰のパノラマ	1 点	山頂の石たち	5 点
北アルプス後立山連峰の山々	20 点	雪形の伝承	27 点
山の伝説	7 点	「北アルプスの自然と人」映像	1 点
つながりプロローグ	18 点		
2階　ホール　「山の成り立ち」ゾーン			計 61 点
水の惑星・地球 46 億年の生い立ち	20 点	日本列島の生い立ち	1 点
驚きのフォッサマグナ	16 点	驚きの北アルプス	22 点
「北アルプスの生い立ち」映像	1 点	中部地方衛星写真	1 点
2階　展示室　「山と生きもの」ゾーン			計 465 点
立山の氷河・カクネ里雪渓・いまを生きる生物	3 点	里山から高山までの生物	247 点
ニホンカモシカ	9 点	ライチョウ	61 点
渓谷の生物	35 点	湖の生物	49 点
湿原の生物	55 点	ライチョウの捕食者	6 点
1階　展示室　「山と人 北アルプスと人とのかかわり」ゾーン			計 429 点
山の魅力	7 点	北アルプスと人とのかかわり年代記	7 点
峠を越える ―針ノ木峠の歴史―	39 点	山に暮らす ―山の恵みと山村の暮らし―	87 点
山に祈る ―山の信仰―	20 点	「山と人」映像	1 点
大町山岳人列伝	10 点	山を測る ―測量―	5 点
山を調べる ―博物学―	23 点	山を描く ―絵画―	8 点
山を写す ―写真―	21 点	山で学ぶ ―日本の近代登山―	145 点
山に住まう ―山小屋の変遷―	28 点	登山の道具	23 点
山とのかかわりの窓		つながりコラム	5 点
1階　エントランス・ホール			計 8 点
「北アルプスの自然と人」導入	1 点	山とわたしたちの未来	
新・對山館サロン	1 点	こどもひろば	6 点
1階　特別展示室　「山と美術 ―山岳風景画とウッドシャフトピッケル―」※2			計 21 点
山岳風景画	16 点	ウッドシャフトピッケル	5 点

※1 点数には、実物資料のほか、写真・図表グラフィックなどの図版資料と映像資料を含む。

※2 特別展示室の展示については、特別展・企画展開催時には各テーマで展示替えを行う。

(2) 企画展示

①鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり（担当:西田均）

a. 会　期：平成 28 年 6 月 11 日（土）～8 月 28 日（日）　※開催日数：76 日間

b. 会　場：市立大町山岳博物館 特別展示室

c. **主　催**：市立大町山岳博物館
d. **監　修**：カクネ里雪渓（氷河）学術調査団
e. **概　要**：カクネ里雪渓（氷河）学術調査における氷河氷の存在、その氷体の流動確認を受け、緊急的な情報発信の場として調査団の全面的な監修協力を得て、企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」を開催した。

総合学術調査の途上ではあるが、最大の関心事である氷河の存在が濃厚となったカクネ里を紹介し、認知し興味を持ってもらいながら現在進行形の調査中間報告的な企画展から国内では希少な氷河への関心を高め、氷河を通した地球温暖化、北アルプスの生い立ち、カクネ里研究の歴史などへの理解を深め知的探求の楽しさを知っていただく機会とすることを目的とした。

f. **展示資料**：氷河の概要・国内外の氷河に関するパネル、カクネ里氷河調査のパイオニア五百沢智也氏に関するパネル及び調査機材、今調査団による調査状況に関するパネル・調査機材・動画などを展示
g. **入館者**：5948 人（有料 5075 人、無料 873 人）
h. **所　見**：期間内に行った調査団報告会、ミュージアムトーク、報告会を含め多くのマスコミにも取り上げていただき、またハイシーズンでの開催であったこともあり多くの方に興味を持っていただけたものと判断される。

某雑誌ルポ記事には、山岳博物館が展示だけでなく調査研究を並行して行っている「進行形」の博物館であると面目躍如の記述もあり、博物館の多様な責務も知っていただけたと言える。

主催者の関係から企画展と報告会の体制が異なり、予算統一が出来なかったことから双方の周知チラシは手作り両面印刷の物となり、十分な周知活動を展開することが出来なかった。今後の他業務に向けての反省点として留意しておきたい。

i. **関連事業**

企画展ミュージアムトーク
日時：トーク者：参加人数
平成 28 年 6 月 11 日（土）午前 10 時 30 分～、午後 1 時 30 分～　各 40 分間
小坂共榮　：　　午前　17 人　　午後　14 人
平成 28 年 7 月 10 日（日）午後 4 時 20 分～　　40 分間
飯田肇　福井幸太郎　：　26 人
平成 28 年 8 月 11 日（祝）午前 10 時 30 分～、午後 1 時 30 分～　各 40 分間
小坂共榮　：　　午前　 7 人　　午後　26 人

j. **その他**

・展示リーフレット　　A4 版　6 ページ　　印刷部数：5000 部（無料配布）

②雷鳥～四季を纏う神の鳥～高橋広平写真展（担当：千葉悟志）

a. **会　期**：平成 28 年 9 月 3 日（土）～11 月 27 日（日）　73 日間
b. **会　場**：山岳博物館　特別展示室
c. **主　催**：市立大町山岳博物館
d. **概　要**：山岳博物館では平成 25 年からは、ニホンライチョウをシンボルに高山環境について、フィールドに出かけて生態や生息地の現状を知り、また、ニホンライチョウの種の保存に取り組もうとしている動物園での取り組みについて、専門家から学ぶなど、自然と人との共生を考える機会を設けてきた。

この度は、写真家の視点からニホンライチョウの魅力にせまり、高山環境へのさらなる興味・関心を高めていただく機会とした。

e. **展示資料**：パネル・写真を用いた展示
f. **関連事業**：

ミュージアムトーク（1 日 2 回：午前 10 時～　、午後 2 時～　）
・9 月 3 日（土）　参加者：29 人
・11 月 3 日（木・祝）参加者：37 人

対談「写真家の視点・研究者の視点からライチョウの魅力にせまる」
・ 9 月 11 日（日）　午後 1 時 30 分～3 時　　参加者 32 人

g. **入館者数**：4,879 人（有料：4,012 人、無料：867 人）

h. **所　見**：平成 25 年度より毎年、ライチョウをシンボルとし研究者を招き、高山環境について考える機会を設けてきたなかで、この度は、芸術的にも評価が高く、生物学的にも興味をそそられるであろう雷鳥写真家・高橋広平氏の作品を用いて、高山環境について考える機会とした。

多くの方がライチョウに関心を示したうえ､会期中に行ったミュージアムトークおよび対談では、これまでイベントに参加された方々とは、異なる参加者を得ることができた。意見交換も積極的になされ、多くの方、また広い年代層に興味関心を持っていただくことができたと考えられ、当初の目的を達成するに至ったと思われる。

i. **その他**

・写真集　印刷部数：500 部

(3) さんぱく研究最前線　－北アルプスの自然と人　トピックスー（担当：清水隆寿）

2 階ホールにおいて、山岳博物館からの最新の研究成果や話題性のある情報を 3 ヶ月ごとに内容を入れ替えながら展示するもので、展示改修を機会に新設されたコーナーである。平成 28 年度には以下の 4 つの展示を実施した。

①テーマ「スバールバルライチョウの飼育」（担当：宮野典夫）

a. **会　期**：2 階さんぱく最前線展示　平成 28 年 4 月 1 日(金)～6 月 30 日（木）
市役所市民ホール展示　　平成 28 年 7 月 10 日(日)～7 月 22 日（金）

b. **概　要**：博物館では平成 27 年よりスバールバルライチョウの飼育を開始しました。飼育を通じ、ニホンライチョウとの違いについて解説を行う。

c. **掲載誌**：『山と博物館』2 月号（第 61 巻第 1 号）「スバールバルライチョウの飼育〈前編〉」（佐藤）
『山と博物館』3 月号（第 61 巻第 2 号）「スバールバルライチョウの飼育〈後編〉」（宮野）

②テーマ「恋しくて、食事も喉を通らない？」（担当：佐藤真）

a. **会　期**：2 階さんぱく最前線展示　平成 28 年 7 月 1 日(金)～9 月 30 日（金）
市役所市民ホール展示　　平成 28 年 10 月 11 日(金)～10 月 21 日（金）

b. **概　要**：ニホンカモシカの食欲（給餌量）と発情の関係について分析を行い、発情時には摂餌率が減少することが確かめられた。

c. **掲載誌**：『山と博物館』8 月号（第 61 巻第 7 号）「恋しくて、食事も喉を通らない？」

③テーマ「登山計画書と入山届（登山届）に関した考察」（担当：西田均）

a. **会　期**：2 階さんぱく最前線展示　平成 28 年 10 月 1 日(土)～12 月 31 日（土）
市役所市民ホール展示　　平成 29 年 1 月 10 日(火)～1 月 20 日（金）

b. **概　要**：登山届と登山計画書の違いを解説。登山届と似て非なる登山計画書の内容とはどのようなものかその内容を登山届義務化とあわせ解説した。

c. **掲載誌**：『山と博物館』1 月号（第 61 巻第 12 号）「登山計画書と入山届（登山届）に関した考察」

④テーマ「大町・白馬アルプス -美しさの秘密-」（担当：矢野孝雄）

a. **会　期**：2 階さんぱく最前線展示　平成 29 年 1 月 1 日(日)～3 月 31 日（金）
市役所市民ホール展示　　平成 29 年 4 月 17 日(月)～4 月 28 日（金）

b. **概　要**：大町・白馬アルプスがなぜ美しいのか、その秘密を地形や気象などの自然条件から解説した。

c. **掲載誌**：『山と博物館』2 月号（第 62 巻第 1 号）「大町・白馬アルプス -美しさの秘密-」

(4) 移動展示

①「第 12 回安曇野アートライン展」への参加と協力（担当：西田均）

a. **会　期**：平成 28 年 11 月 19 日(土)～12 月 18 日（日）

b. **会　場**：国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉多目的ホール（安曇野市）

c. **概　要**：安曇野アートライン推進協議会に加盟する美術館・博物館所蔵の作品や、各館の紹介パネルなどを、国営アルプスあづみの公園〈堀金・穂高地区〉で展示。公園の来園者に安曇野のアートにふれていただいた。当館は山川勇一郎の「マポチョ　サンディアゴ」「ラパスの露天商」「パイネアルマガから」「青空の覗くロマ・ラルガ氷河」「ロマ・ラルガ氷河を往くロバ」の 5 点を出品した。
また、併せて開催されたスタンプラリーにも参画し、景品も提供した。

②「銀座ＮＡＧＡＮＯ安曇野アートライン展」への参加と協力

a. 会　期：平成 29 年 2 月 18 日(土)～2 月 21 日（火）

b. 会　場：銀座ＮＡＧＡＮＯしあわせ信州シェアスペース（東京都中央区銀座）

c. 概　要：昨年度に引き続き 3 回目の「銀座ＮＡＧＡＮＯ安曇野アートライン展」が開催された。今回のコンセプトは「本物を」であり、当館では中村清太郎「槍の雪渓」を出品するとともに、加盟館が提供した来場者抽選プレゼントに、おおまぴょんグッズを提供した。

2　教育普及活動

(1) 学習会等の開催

①ふぞくえんまつり　（担当：佐藤真・宮野典夫・戸谷諭美・遠藤モナミ・内田木野実・多田晴彦）

a. 開催日：平成 28 年 4 月 29 日(金・祝)～5 月 5 日(木・祝)　（延べ 7 日間）

b. 場　所：山岳博物館 付属園

c. 参加者数：延べ 577 人（子ども～大人）

（内訳）「どうぶつ写生大会」31 人

「どうぶつ観察ツアー」89 人（子ども 66 人、大人 23 人）

「ふぞくえんスタンプラリー」267 人

「おおまぴょんとあそぼう」190 人

d. 概　要：付属園内の展示動物を描く「どうぶつ写生大会」、展示動物を解説しながら園内を巡る「どうぶつ観察ツアー」、展示動物を絵柄にした手作りスタンプを押して集める「ふぞくえんスタンプラリー」、大町市の公式キャラクターの「おおまぴょんとあそぼう」の 4 つのイベントを開催した。

山岳博物館では、開館間もない昭和 28 年頃から動植物を飼育栽培する付属園（動植物園）を屋外に併設し、希少野生動植物の保護増殖や調査研究を行うとともに、北アルプスの山麓から高山に生息する生物を飼育栽培して、生体展示などの教育普及を行っている。また、平成 9 年度から大北地域周辺の野生傷病鳥獣を救護収容している。付属園にかかわる市民対象の各種催しを実施する期間を「ふぞくえんまつり」と称して各催しを実施することで、付属園と飼育動物を身近に感じ、親しみを持っていただくとともに、傷病鳥獣の救護などの活動についても広く周知し、付属園の役割について理解を深めていただいた。これにより、大町市周辺地域の野生動物や自然環境への関心を高めていただくことを目的とした。

e. 所　見：「どうぶつ写生大会」は、昭和 62 年度（同年度以降、日動水中部ブロック写生コンクール参加）から、「どうぶつ観察ツアー」は平成 18 年度から（21 年度までは「山博おもしろミニゼミ動物ウォッチング」）、「ふぞくえんスタンプラリー」（24 年度までは春夏秋の年 3 回）は平成 19 年度から、それぞれ毎年実施してきている。市民、特に小学生以下の子どもを対象に、平成 24 年度までは個々の事業として実施していた上記の付属園に関わる教育普及事業を「ふぞくえんまつり」という名称を冠してまとめ、同時期に実施し今年は 4 年目にあたる。

催し案内のリーフレット（カラー用紙に印刷機で印刷）を市内小学校の全児童に学校を通じて配布し、また、市キャラクターのおおまぴょんとのふれあいで、来園者への参加呼び掛けや、子どもを中心とした参加者との交流を行ったところ、子どもから大人まで好評であった。期間中、600 人弱の延べ参加者があり、付属園の役割や飼育展示する野生動物の特性について広く知っていただく大変良い機会となった。年々参加者数が減少する傾向にあることから、次年度は催し内容と広報の方法について検討を行い、実施する。

ア　どうぶつ写生大会（担当：佐藤真）

付属園の飼育動物や園内風景を画題に写生し、野生動物の特徴をとらえるとともに、動物愛護の精神を高めて命の大切さを知っていただいた。写生大会終了後、全参加作品は「どうぶつ写生画展」として博物館にて展示後、各学（園）校を通じて返却した。また、優秀作品 23 点を選出し、日本動物園水族館協会中部ブロック写生大会に応募した。

開催日は 4 月 29 日～5 月 5 日で、対象は幼児から小学生・中学生までとした。

a. 共　催：日本動物園水族館協会中部ブロック

b. 後　援：日本動物園水族館協会

c. 参加作品数：31 点

d. 概　要：日本動物園水族館協会中部ブロックが目的としている児童・生徒の動物愛護精神を高め、描画教育並びに、文化の向上と親善をはかることをかんがみ、大町市内や周辺の幼稚園・保育園の園児、小・中学校の児童・生徒を対象にして、動物を観察して親しみながら写生を楽しむ機会とした。作品は第61回中部ブロック動物園水族館写生大会への応募を行う。

e. 所　見：日本動物園水族館協会が開催する同写生大会への参加は、山岳博物館としては本年で29回目となる。本年度の写生大会参加者内訳は、昨年度の65人から半減した。盛会時には100人近くの参加者があったが、児童、生徒あるいは各家庭における、ゴールデンウィークの利用方法が、大町市における催しの形態と一致していないことが原因として考えられる。

f. 関連事業

・どうぶつ写生画展

「大町山岳博物館　どうぶつ写生画展」として、参加作品すべてを6月18日～7月3日まで（開催日数は16日間）山岳博物館講堂において展示した。

・写生画表彰式

写生画表彰式7月3日（日）午後3時から山岳博物館講堂において執り行い、荒井今朝一教育長、鳥羽章人館長より、それぞれ入賞者23人に賞状と盾を授与した。

イ　どうぶつ観察ツアー

来園者と一緒に飼育員・学芸員が付属園の飼育動物を解説しながら園内を回ることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園の役割を理解していただいた。

a. 開催日は、4月30日（土）、5月1日（日）、5月5日（木・祝）

ウ　ふぞくえんスタンプラリー

付属園内に設置したオリジナルスタンプを楽しみながら押して集めることで、見学効果を高め、飼育動物や付属園に親しんでいただいた。スタンプは飼育員によるオリジナルスタンプを設置。

a. 開催日は、4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝)

エ　おおまぴょんとあそぼう

大町市の公式キャラクターのおおまぴょん（ニホンカモシカをモチーフ）の演出により、学芸員がニホンカモシカの生態などの特徴について解説を行った。「おおまぴょん」とふれあい親しみながら、カモシカに加えてライチョウの特徴についても解説を行った。

a. 開催日は、4月30日（土）、5月1日（日）、5月5日（木・祝）

②さんぱく こども夏期だいがく ―夕闇動物探検隊―（担当：佐藤真）

a. 期　日：平成28年8月6日（土）

b. 場　所：山岳博物館 講堂および付属園

c. 対　象：小学生　定員20人

d. 参加者数：17人（保護者12人）

e. 概　要：　山岳博物館で平成23年度から毎年開催している「さんぱく こども夏期だいがく」は、夏休み期間中の小学生を対象とした催しである。今年は、夜行性の動物に焦点を当てて解説を行い、付属園で実際の夜行性の動物を観察・解説しながら探検を行った。

f. 所　見：夏休み期間中の小学生を対象とした催しである「さんぱく こども夏期だいがく」は平成23年度以降、内容を変えながら毎年実施。毎回好評を得ており、近年では夏の子ども対象の催しとして定着している。

今年は、夜行性の動物に焦点を当て、普段見ることのできない行動やその意味について解説を行った。夜間の実施であったため、動物のカードを使用したクイズや、フクロウの剥製に触れてもらうなど、飽きさせないための工夫は有効であったと考えられる。なぜ夜間に行動するのか、逆に夜間に行動しない動物の行動の意義など、夜行性動物をメインにしつつも、今後の学習につながるような内容であり、大町市周辺の山岳環境に生息する動物に関して、興味関心を引き出すことができたと考えられる。

当日の参加者は市内小学生中心に17人であった。定員を若干下回ったが、やまびこ祭りと山の子村キャンプのイベントと実施日が重なっているにもかかわらず、保護者も含めて高い興味・関心をひき集客につながった。その要因としては、催しタイトルのネーミングが特に効果的であったと考えられる。実施後の参加者アンケートからも、満足いただけたことが窺える。

当日のスタッフとして、博物館職員6人のほか、期間中に当館で実習を行った博物館実習の大学

生 4 人と教員研修の大町南小教諭 1 人の計 11 人が対応した。付属園探検時には夜間ということもあり、10 人以上の人員が必要であることを実感した。今回の実施では怪我等は一切なかったが、付属園から戻る際に走って戻ろうとしてしまう子どもが見られたため、注意喚起などを強化する必要があると考えられる。

③自然ふれあい講座　みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」（担当：佐藤真）

（長野県環境保全研究所　平成 28 年度自然ふれあい講座を兼ねて開催）

a. **開催日**：平成 28 年 8 月 4 日（木）

b. **主　催**：長野県環境保全研究所、市立大町山岳博物館

　協　力：自然観察指導員長野県連絡会、セミの抜け殻しらべ市民ネット

c. **場　所**：大町公園周辺、博物館講堂

d. **参加者数**：小学生 9 人・大人 5 人　合計 14 人

e. **概　要**：長野県内で身近なところで起きている自然の変化の記録を持ちより、本当に温暖化などの変化が起きているのかを、セミの抜け殻を探す調査や観察を通して、地球環境の在り方を考えていただくことを目的に開催した。大町での開催は平成 28 年度で 5 回目となる。

f. **所　見**：普段セミの抜け殻を見たり集めたりしない子どもには、体験したことのない抜け殻探しを通して、抜け殻の種類の多さやセミの行動や一生について学ぶ良い場となった。日頃からセミの抜け殻に慣れ親しんだ子どもには、より専門的な知識を供給する場となり、温暖化によるセミの種数の変化などをより深く理解していただけた。また、この事業に毎年参加している子どももおり、夏休みの自由研究として利用している子どもが多く見受けられる。今後、セミの抜け殻の種類の変化と地球温暖化の影響を正確に検証するためには、10 年単位での調査が必要であり、継続的な事業の実施が望まれる。

　図鑑ではなく実物を子ども自らの手で採集し、その抜け殻の形から種類を同定することで、自然環境やそこに生息する動物への興味関心を引き出すことができた。地球温暖化によって、今回捕まえたセミが来年にはいなくなる可能性があることや、逆に今までにいなかった新たな種が見られる可能性があることなど、環境の変化とそこに生息する動物の変化を関連付けて学ぶ貴重な場である。

　募集は 20 人だったが、当日は小学生が 9 人の参加であった。一家族が熱のためにキャンセルしたことで一桁となってしまった。例年どおりの広報を行ったが、充分な集客に至らなかったことから今後効率的な広報の方法を検討する必要がある。また、セミの抜け殻の数は昨年度に比べて 250 個ほど少ない 168 個であったが、これは 8 月 1 日と 2 日にみられた豪雨によって抜け殻が木から落ちて流されてしまったことが原因と考えられる。

④平成 28 年度 山岳博物館・山博友の会 共催事業

「講演会　さんぱくを通して地域資源の再発見－友の会が支える博物館事業から－」

（担当：千葉悟志）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 28 年 4 月 24 日（日）

c. **場　所**：山岳博物館　講堂

d. **対　象**：大町市民・友の会会員　大人～小学生

e. **参加者数**：32 人

f. **概　要**：大町市と信州大学が、平成 27 年度に定住促進に向けて実施した共同研究の報告。

g. **所　見**：研究を担当された麻田玲さん（東京大学東洋文化研究所特任研究員）より研究成果を報告いただいた。この研究は、大町山岳博物館友の会会員（約 270 人からなる外郭団体で、市外 6 割・市内 4 割の会員構成）の平均会員継続年数は 17 年と、入会すると長期継続の会員が多く、それには理由があるはずであり、そこに大町市民の意識調査を交え、資源を見出し、定住促進のきっかけにするというものであった。結果、友の会会員の山博への魅力とは、物理的な距離よりも心理的な近さが資源に強く働き、逆に市民は、身近であるが故に資源として働きが弱いのではないかとのことであった。これは、心理的な近さを増幅また、くすぐるような手法によって市外に山博ファンを増やせる可能性を示唆するものであり、山の日制定を追い風に、山博の認知度を高めることで、それはさらに効果を得ることができるであろうとの提言をいただいた。同時にこれは、山岳文化都市宣言のまち大町市に対する提言と置き換えることができ、今後、大町市の定住促進を考えるときの大きなヒントがそこにはあったと思われた。参加の皆さんが考える山博、大町市の資源についての

意見交換も大いに参考となるものであった。

⑤山の歴史ウォーキング 体感！ 山岳文化都市おおまち ―平野口編―（担当：関悟志）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 28 年 6 月 22 日（水）

c. **場　所**：大町市平 大町温泉郷～平野口大出周辺

d. **対　象**：大町市民・友の会会員　大人～小学生　定員 20 人

e. **参加者数**：大人 24 人（一般参加者 11 人・友の会会員 13 人）

f. **概　要**：大町市内にある北アルプスの山岳文化史ゆかりの各所を歩いて巡る催し。昨年度以降、シリーズとして実施。ふだん何気なく通っている場所にある山にまつわる地域の歴史を知る機会とし、「山岳文化都市」大町市を体感していただく。シリーズ 3 回目となる今回は、平野口地区をフィールドにし、山岳にかかわる歴史・民俗をテーマにし、タウンウォッチングやフィールドワークの手法を用いながら、地域の山岳文化にふれることで、山岳文化都市・大町市の魅力を再発見する機会とする。この日、７年に１度の御開帳を迎えた平野口大出の西正院・大姥堂を見学。大姥堂では、大町市文化財センターの文化財指導員・小林茂喜氏を講師に迎え、厨子の扉が開かれる本尊の大姥尊像を拝観し、信州の立山信仰について解説していただいた。このほか、各ポイントでは学芸員が解説を行った。

g. **所　見**：後立山連峰を中心とした「北アルプスの自然と人」をテーマに活動する山岳博物館の趣旨に沿った企画で、山のまち「大町」にある山にかかわる身近な地域の歴史・民俗を広く知っていただくことができた。

当館の展示資料や収蔵資料、二次資料や文献資料をもとにして、各探訪ポイントで学芸員が詳しく説明することができた。あわせて、大姥堂では市指定文化財である大姥尊坐像と信州の立山信仰について、大町市文化財センターの文化財指導員・小林茂喜氏から解説していただいた。なお、一般参加者には友の会入会案内・申込書を配布し、友の会入会のメリットを説明し、入会を勧めた（当日、その場で入会していただいた参加者 1 組あり）。

申し込みから 10 日余りで定員を超える参加応募があり、定員を上回っての実施となった。一昨年までシリーズで実施していた「塩の道を歩く」では近年の参加者が定員の 6 割程度であり、一般参加者の割合が少なく、大半が友の会会員であったが、今回は市民を含む一般参加者が 5 割で、友の会会員と半々程度であった。これらから、事業目的の対象者の興味・関心をひくことができたと考える。また、催しの名称に「ウォーキング」という言葉を用いた。近年の健康意識の高まりから、前回の参加者の中には各地で実施されているウォーキングイベントに積極的に参加している方々が複数おり、歴史探訪とあわせた平地での軽運動が興味をひくポイントであったと考えられる。また、今回の主な探訪場所である西正院・大姥堂では当日が 7 年に 1 度の御開帳にあたり、普段は秘仏とされる本尊の大姥尊像を拝観した。御開帳に合せての実施ということから、平日が実施日となり、参加者が少ないことも当初予想されたが、結果として定員を上回る参加者があり、こうした好機にあてた催し企画の重要性を思い知らされた。

当日のスタッフとして、博物館職員と友の会運営部員が、それぞれ 2 人の人員を出し合い、受付や引率等を役割分担したほか、経費面でも友の会からの負担金を支出していただくことで、より効率的な事業実施が行えた。しかし、下見については友の会運営部員と日程が合わず、博物館職員のみで行った。

⑥対談「写真家の視点・研究者の視点からライチョウの魅力にせまる」（担当：千葉悟志）

a. **共　催**：大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 28 年 9 月 11 日（日）

c. **場　所**：山岳博物館　講堂

d. **対　象**：大町市民・友の会会員　大人～小学生　定員 20 人

e. **参加者数**：大人 32 人

f. **概　要**：写真家から見たライチョウの魅力と鳥類研究者から見たライチョウについて語っていただき、新たな視点からライチョウの魅力を見出し、高山にすむライチョウを通して高山環境について考えていただく機会とした。

g. **所　見**：高橋広平氏（雷鳥写真家）と小林篤氏（鳥類研究者・東邦大学訪問研究員）という若手同士の対談形式で実施した。これまでは専門家を招いた解説等を行ってきたが、コーディネーター

をライチョウの飼育を担当する宮野典夫山博指導員が務めることで、和やかに二人の魅力を引き出すことができ、参加者も新たな視点からライチョウを見る楽しさを感じていただけたものと思われる。

アンケート結果からも参加者の満足度が高かったことがうかがえた。

⑦山の歴史ウォーキング　体感!　山岳文化都市おおまち－木崎湖編－（担当：清水隆寿）

a. **共　催：**大町山岳博物館友の会

b. **開催日**：平成 28 年 10 月 30 日（日）

c. **場　所：**〔目的地〕木崎湖

〔コース〕信濃木崎夏期大学（集合・出発式）－西丸震哉記念館・木崎小丸山遺跡見学－千国街道・稲尾集落－海ノ口駅・一津遺跡－あべっと祠－松沢貞逸の墓碑－海ノ口庵と海ノ口アカマツ－中部農具川のカワシンジュガイ－上諏訪神社と銅戈・ヒカリゴケ－森城址－木崎湖温泉－信濃木崎夏期大学の順路で見学

d. **対　象**：大町市民・友の会会員　大人～小学生　定員 20 人

e. **参加者数：**15 人（一般参加者 5 人・友の会会員 6 人・友の会担当役員及び職員 4 人）

f. **概　要：**風光明媚な湖と里山に囲まれて暮らす木崎湖周辺の集落は、湖や山々から大きな恵みをいただいてその歴史や文化が育まれました。今回は、この木崎湖周辺に残された史跡などを博物館学芸員とともに巡るトレッキングツアーを開催した。本年度二回目の「山の歴史ウォーキング」の催しである。

今回のルートは、木崎湖の周囲約 8.5 ㎞を一周しながら、周辺の史跡や遺構を巡り、大町のまちづくりの歴史や民俗そしてこの地に根付く山岳文化の魅力を再発見するねらいをもって実施した。

g. **所　見：**今回の見学地の見どころは、大町地域北部に所在する仁科三湖のうちのひとつ木崎湖に焦点を絞って、その地に育まれた歴史と自然について実際に自分の足で歩き、自分の目で感じる体験教室である。日頃は、地元の人にとって当地は、自動車や電車で通過するだけで、周囲を徒歩で一周するなど歩く機会がないところであり、あらためて自然景観を堪能しながらの散策となり好評であった。しかし距離も長く、途中で体調を崩す人も出るなど、十分なバックアップ体制の必要性があらためて感じられた。

仁科三湖一帯は、湖の幸・内水面漁労のメッカであり、周囲は里山に囲まれ山仕事など歴史的に活用されてきた場所であり、民俗学的調査など十分に行われていないことから、今後更に知見を積み重ね、人文科学と自然科学との連携を強化し、今後博物館としてもより多くの情報発信が出来るよう継続して取り組んでいきたい。

(2) 学校との連携・融合（調整：関悟志）

期　日	内容（館外の実施場所）	対象校・学年など	人数	指　導
5 月 18 日	学校との連携授業 社会科	大町東小 4 年	32	関
5 月 21 日	「課題研究」授業への連携協力	大町岳陽高 2 年	10	関・佐藤
5 月 24 日	国語・大町紹介パンフレット作成の取材	大町西小 6 年 2 組	10	宮野
5 月 26 日	見学学習	東京コミュニケーションアート専門学校	25	佐藤・戸谷
6 月 3 日	キャンプ学習 木崎湖周辺の自然・歴史について（木崎湖キャンプ場）	大町南小 5 年	59	清水・千葉
6 月 8・9 日	職業体験学習 動物飼育	八坂中 2 年	2	佐藤･戸谷･遠藤･内田･多田
6 月 9 日	キャンプ学習 青木湖周辺の自然・歴史について（青木湖キャンプ場）	大町西小 5 年	47	清水・千葉
6 月 15 日	鷹狩山登山学習	大町岳陽高 1 年	241	（常設展の見学）
6 月 17 日	自然観察（白馬村・親海湿原）	大町岳陽高理数科 2 年	40	千葉
6 月 24 日	総合的な学習「美麻の植物今昔」（美麻小中学校周辺）	美麻小中 7 年	4	千葉
7 月 4 日	総合的な学習「八坂の地質」（八坂中学校～八坂地域の地質調査）	八坂中 1・2 年	2	矢野
7 月 5 日	キャンプ学習 青木湖周辺の自然・	松川小 5 年	85	清水・千葉

	歴史について（青木湖キャンプ場）			
7月20・21日	職業体験学習 動物飼育	白馬中3年	2	佐藤･戸谷･遠藤･内田
7月26日	職員研修・館内見学	大町北小教諭	20	関
8月4日	教員研修	小谷中教諭	1	佐藤・宮野・千葉
8月4・5日	教員研修	大町北小教諭	1	佐藤・宮野・千葉
8月4・6日	教員研修	大町南小教諭	1	佐藤･宮野･千葉･関
8月26日	総合的な学習 百瀬慎太郎について	仁科台中1年1組	2	関
8月27日	北安曇郡内理科専科教員研修 人と動物・岩石について	北安曇理科研究会（郡内小中理科担当教諭）	15	佐藤・矢野
9月2日	総合的な学習 北アルプスの山の成り立ち等について	大町第一中1年	5	矢野
9月6日	理科授業 地層観察（中山高原）	美麻小中6・7年	20	矢野
9月8・9日	職業体験学習 動物飼育	仁科台中2年	2	戸谷･遠藤･内田･多田
9月9日	総合的な学習 青木のろっぽう石について	大町第一中1年	3	矢野
9月9日	総合的な学習 フォッサマグナについて	大町第一中1年	3	矢野
9月9日	総合的な学習 高山植物について	大町第一中1年	8	千葉
9月9日	総合的な学習 山名由来等について	大町第一中1年	2	関
9月13日	理科授業 大地のつくりと変化（美麻小中学校～小川村立屋）	美麻小中6年	9	矢野
9月13日	総合的な学習 ライチョウについて	大町第一中1年	4	佐藤
9月13日	総合的な学習 動物等について	大町第一中1年	5	佐藤
9月13・14日	職業体験学習 動物飼育	大町第一中2年	2	戸谷･遠藤･内田･多田
9月21日	社会見学 社会科・土地利用ほか	大町南小3年	53	関・清水
9月29日	理科授業 地質（館内～中山高原）	八坂小6年	8	矢野・関
9月30日	学校との連携授業 理科	大町南小4年	46	宮野・佐藤
10月18日	学校との連携授業 理科・社会科（美麻小中学校）	美麻小中4年	5	佐藤・関
11月10日	学校との連携授業 理科	大町西小4年	52	佐藤・宮野
11月29日	学校との連携授業 理科	八坂小4年	5	佐藤
12月13日	職業体験学習 動物飼育	大町岳陽高1年	2	戸谷･遠藤･内田･多田
1月18・19日	校内化石展（大町南小学校）	大町南小1～6年	100	矢野
2月15日	岩石標本の鑑定（大町岳陽高校）	大町岳陽高校	―	矢野
3月16日	岩石標本の鑑定（大町岳陽高校）	大町岳陽高校	―	矢野
3月14～20日	動物飼育研修・インターンシップ	東京環境工科専門学校1年	1	佐藤・宮野・戸谷・遠藤・内田・多田
実施回数：40回（延べ53日）		学校数：16校	人数合計：934人（延べ1,050人）	

①「学校との連携授業」（市内小学校の博物館活用事業）（担当：関悟志）

a. 実施日：上記のとおり　※5～12月の間に、市内6小学校により延べ9日(9回)実施

b. 場　所：理　科：2階「山と生きもの」、付属園
社会科：1階「山と人」、3階「展望ラウンジ」

c. 参加者数：市内小学生 延べ296人（4学年）　※このほか各小学校教諭引率

d. 概　要：学校教育と社会教育との連携・融合（学社連携・融合）推進のひとつとして、博物館の展示を利用した学校との連携授業を実施。平成22年度から2ヶ年、大町南小学校をモデル校に4年生の理科授業（動物）を年1回実施し、授業プログラムやワークシートを作成して検証・改良を行った。そうした試行期間を経て、24年度から4年生の理科と社会科授業において新たに実施希望校を募り、市内小学校の博物館活用事業を本格実施している。これにより、実施校数を広げるとともに複数の教科の学習プログラムを作成して実施回数を増やし、博物館を利用した小学校での各教科授業の定着をめざす。同時に、博物館の所蔵資料や専門員・学芸員といった職員を学校の授業で

活用していただくことで、児童・生徒の学習理解度の向上が期待でき、市民により身近な博物館をめざす。

ア　連携授業 プログラム１　　理科・4 学年「生き物のくらし」「人の体のつくりと運動」（学習素材：ライチョウ、ニホンカモシカ、ツキノワグマ）

イ　連携授業 プログラム２　　社会科・4 学年「郷土に伝わる願い」（学習素材：百瀬慎太郎）

e. 所　見：平成 22 年度から 2 年の試行期間を経て、24 年度から実施希望校を募って本格実施した事業である。本年度、事業実施に際し、市内小学校の理科担当教諭等が集まる市科学振興会理事会にて本事業の事前説明を行ったほか、市内校長会で説明依頼を行い、実施希望校の受け付けを行った。それにより、市内小学校全 6 校から希望があり、理科と社会科の授業を計 9 回実施した。平成 26 年 3 月の展示改修によって、これまで実施してきた理科・社会科の連携授業により一層対応した展示内容となっており、それに沿った形での授業の流れやワークシートの編集といった点について、改善を加えて実施している。各学校の授業進度状況や校外活動予定によって、実施へ向けた調整が難しい場合もあったが、1 校については、出張講座形式で対応し、学校の教室へ出向いて理科・社会科の両連携授業を実施した。事業全体では、過去の反省点や改修した常設展示を活かした形で内容を改善して作成したプログラムとワークシートによって効果的に実施できた。数年間の事業実績により、博物館を利用した小学校での各教科授業がある程度定着してきており、今後も必要かつ有効な事業と考える。

昨年度希望がなかった 2 校にも本年度は実施していただくことができ、市内小学校全 6 校で完全実施することができた。今後、引き続き、各学校に連携授業の実施を働きかけるとともに、新たな学習プログラムを作成して、博物館を利用した各教科の授業を拡充させたい。

(3) 博物館実習の受入（調整：佐藤真）

期　日	実 習 者	人員(人)	指導
8 月 3 日（水） ～8 月 7 日（日） 計 5 日間	八洲学園大学生涯学習学部科目履修生 八洲学園大学生涯学習学部科目履修生 信州大学理学部 4 年生 龍谷大学理工学部 3 年生	4	鳥羽･清水･宮野･千葉･関･佐藤

博物館法施行規則第 2 条（博物館実習）第 1 項の規定にもとづき、学芸員の有資格者となるために、大学で修得すべき博物館関係科目単位の一つである博物館実習を希望する大学生の受け入れを行った。当館での博物館実習は博物館における実践的な側面の学習を主眼におき、実習を実施した。教育普及を中心に資料整理や受付業務等の博物館業務全体について実習を行い、地方における地域博物館の役割を体験的に学習していただいた。

当館での実習志望の理由は例年と同様であり、「山岳」をテーマにした博物館である当館での実習を希望したためで、全国的にもユニークなテーマの当館が実習先として学生に選ばれた結果である。また、学生が受け入れ先の博物館等を探すことは困難のようで、毎年受け入れ実績がある当館への学生のニーズは高いことがうかがえる。

計画に基づき、一つの事業に限らず網羅的に博物館全体の業務を経験していただくことで、学芸員になるための単位取得のためだけではなく、博物館における多岐にわたる事業の理解と、地方における博物館の役割について深く理解していただけた。

当館としては博物館実習を教育普及活動の一環として位置づけ、生涯学習支援・社会教育の推進につながるものとして実施している。また、学生へ指導することによって、自らが担当している業務について役割や意義をあらためて見直す機会にもなる。

実施方法として、実習の実施に際して各担当者と調整し、実習期間中の 1 日ごとの詳細な学習計画を作成し、事前に実習生に送付したことで、指導担当職員と学生の両者で個々の実習日の概要について把握できたので効果的であった。

(4) **学習会等への協力**（調整：佐藤真）

期　日	内容（館外の実施場所）	主　催	参加者	指　導
5 月 1 日	戸隠森林公園をめぐる （戸隠森林公園）	山岳博物館友の会	7	千葉
5 月 5 日	長野県天然記念物　居谷里湿原自然観察会 （居谷里湿原）	大町市文化財センター	午前 23 午後 16	千葉
5 月 10 日	歴史探訪	NHK 松本文化センター	17	佐藤
6 月 5 日	自然環境フォーラム　信大マイスター10 周年記念 「ニホンライチョウ・その生態と危機的環境を学ぶ」 （岡谷市　塩嶺御野立公園内塩嶺閣）	信大マイスター	30	佐藤
6 月 15 日	スカシユリ自生地をめぐる （新潟県燕市　角田山）	山岳博物館友の会	6	千葉
6 月 18 日	学級レクリエーション	南小学校　3年2組 PTA	大人 25 小人 38	清水・佐藤・宮野
6 月 18 日	親子レクリエーション	東小学校 2 年 PTA	大人 27 小人 44	清水・佐藤・宮野
7 月 3 日	田ノ原湿原をめぐる （山ノ内町　田ノ原湿原）	山岳博物館友の会	7	千葉
7 月 20 日	山の魅力と登山の歴史 （池田図書館）	池田図書館	15	関
7 月 25 日	身近な動物とのつきあい方 （美麻情報センター）	美麻小児童クラブ	10	佐藤
7 月 28 日	山の日制定記念北アルプス登山開拓者たち（豊科交流学習センター「きぼう」多目的ホール）	安曇野市教育委員会生涯学習課	65	関
8 月 6 日	地域の歴史を学ぶ「播隆上人と槍ヶ岳開山」（安曇野市明科子どもと大人の交流学習施設「ひまわり」）	安曇野市明科図書館	31	関
8 月 9 日	大町山岳博物館　学芸員さんのお話を聞く会（八坂小学校　クラブ室）	八坂児童クラブ	8	関・佐藤
9 月 4 日	第一回　高山植物の実生観察会	山岳博物館友の会	4	千葉
11 月 6 日	御池山隕石クレーターと日本のチロル「下栗」研修会（飯田市下栗地区）	山岳博物館友の会	24	矢野
12 月 10 日	信州大学科学館　第 3 回ミニシンポジウム（理学部講義棟第 1 講義室）	信州大学理学部	32	千葉
3 月 26 日	鹿島槍カクネサトの氷河調査から学ぶ（山岳総合センター）	大町勤労者山の会	25	西田
実施回数：17 回（延べ 17 日）		団体数：14 団体 （延べ 17 団体）	人数合計：延べ 436 人	

上記以外に、下記の各種事業に協力した。

①雪形まつり（担当：清水隆寿）

第 15 回北アルプス雪形まつりに併せて、山岳博物館では実行委員会に委嘱され、雪形ウォッチング部門の展示及び企画を担当した。なお大町市文化会館で行った「第 15 回北アルプス雪形まつり」のイベントは、平成 28 年 6 月 12 日（日）午後 1 時より実施された。

a. **会　期**：〔雪形写真展〕平成 28 年 5 月 14 日（土）～6 月 6 日（月）（24 日間）

b. **会　場**：ギャラリーい～ずら（二階展示場）

c. **見学者数**：約 240 人

d. **概　要**：ギャラリーい～ずらの展示場で、雪形写真パネルの展示（約 20 点）と雪形ビデオ上映をし、「雪形写真展」を実施し解説を行った。

e. 関連事業

・本年度の特別企画として、上述した雪形写真パネルの展示のほかに、信濃毎日新聞タウン情報誌において雪形の連載をされている丸山祥司氏より、北アルプスを中心とする雪形の写真をお借りして、写真展を開催しました。タウン情報誌上でも好評を得ている写真ということもあり、実際の写真を見てみたいという方も会場に多く訪れていただきました。

・「雪形ウォッチング」は、5 月 22 日（日）、5 月 29 日（日）の 2 日間、小谷村地区から南は安曇野市豊科地区にかけて、マイクロバスを利用し雪形見学会を開催。講師は渡辺逸雄氏、宮澤洋介氏ほか、博物館職員・清水が行い、参加者は 2 日間の見学会で合計 13 人。

なお、ウォッチング参加者の内訳は、県外 1 人、北安曇郡内 4 人、大町市内 8 人。

②市民登山（担当：西田均）

a. **開催日**：平成 28 年 9 月 3 日（土）～4 日（日）

b. **場　所**：計画：爺ケ岳～新越乗越～針ノ木岳

実施：曇り時々晴れの天候の中、無事実施された。

c. **参加者数**：19 人

d. **概　要**：昨年度の市民登山は悪天候のため中止となっていた第 66 回大町市市民登山は、同コースを本年度の市民登山として実施された。例年当館で協力しているしおり原稿については同コースであったことから昨年の物がそのまま再利用された。

e. **所　見**：同コースでの実施と言うことで、実施について簡易な連絡を受けたのみで良しとした。

③第 6 回 信州・大町　山の子村キャンプ　福島の子どもたち保養プログラム（担当：宮野典夫）

福島第一原子力発電所の事故に伴う放射能の汚染被害を受けている子ども達に、心身の保養をしていただく環境を大町に整えて過ごすことを目的とした信州･大町 山の子村キャンプ実行委員会に共催として加わり、プログラムのサポート等を担当した。運営には大学生や社会人のボランティア 60 人以上の方々の支援をいただいた。

a. **主　催**：信州・大町　山の子村キャンプ実行委員会（実行委員長　山内香代子氏）

b. **会　期**：平成 28 年 8 月 6 日(土)～8 月 12 日(金)　(6 泊 7 日間)

c. **会　場**：旧山の子村を中心に、鷹狩山等

d. **参加者数**：福島の小学生 21 人、同中学生 2 人、市内の小学生・日帰り参加者 14 人

e. **概　要**：ウェルカムコンサートを皮切りに、鷹狩山トレッキング、木崎湖カヌー体験などの体験型メニューをいくつか用意して、その中から「自分の好きなこと」「とことんやりたいこと」を自分で選んで仲間と遊びながら体験することを主眼としたプログラムとした。寄付等の善意は、100 以上の会社・団体・個人より支援をいただき開催した。

f. **所　見**：キャンプも今年で第 6 回目を数え、近年では地元の松本大学観光ホスピタリティー学科の学生、あるいは信州大学ボランティアサークルｓkip などの皆さんも率先してプログラムの推進に協力していただいた。福島より招いた子どもたちの感激と同様、ボランティアで支えてくれた学生の皆さんにとっても大きな感動と経験になったものと思われる。

④大町登山案内人組合創立 100 周年記念事業実行委員会（担当：鳥羽章人・関悟志）

a. **期　日**：設立準備会･平成 28 年 5 月 11 日（水）、設立総会･5 月 17 日（火）・幹事会･12 月 6 日（火）

b. **会　場**：大町市役所

c. **概　要**：一昨年はじめて開催された「信濃大町 山岳フェスティバル」（主催：同実行委員会）は、昨年の長野県「信州山の日」制定をきっかけに開催されたもの。県民共通の財産であり、貴重な資源である「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくとする「信州山の日」の趣旨にもとづき、昨年も開催された。本年度は、この実行委員会組織を引き継いで、「大町登山案内人組合創立 100 周年記念事業実行委員会」が設立され、平成 29 年に創立 100 周年を迎える大町登山案内人組合の功績とその存在を全国へ発信するとともに、北アルプスを中心とした大町市の山の魅力を同時発信し、山岳観光の振興を図るため、記念事業を実施することとなった。山岳博物館では、実行委員会及び幹事会の構成員となり、協力した。

d. **所　見**：平成 28 年度はプレイベントとして、プロモーション活動や登山ツアー造成事業等が実施された。なお、100 周年当該年度となる 29 年度は年間を通じて各種事業が計画されており、山岳博物館では、実行委員会との共同企画展を夏～秋季に開催予定。

⑤ライチョウサミット

「第 17 回 ライチョウ会議 長野大会」　（担当：鳥羽章人・関悟志・佐藤真）

a. 期　日：平成 28 年 10 月 15 日（土）・16 日（日）

b. 会　場：大町市文化会館、サン･アルプス大町　他

c. 参加者数：延べ約 740 人（内訳：エクスカーション 55 人、ライチョウ保護行政連携会議約 30 人、ライチョウサミット シンポジウム約 400 人、レセプション約 50 人、専門家会議約 200 人）

d. 概　要：ライチョウ会議大会は、ライチョウの保護を目的にその生息地を抱える全国の各県を中心に関係者が集い、専門家会議や一般参加者を対象としたシンポジウム等の催し。

第 17 回となる本長野大会では、従来の大会実行委員会の組織に県も加わり、ライチョウ保護とその生息地である山岳環境保全のために、国・県・市町村・民間・有識者等の横断的な連携を構築する初年度と位置付けて「ライチョウサミット」と称し、より実効性のある大会を目指した。

より多くの皆様に参加いただくことで、この大会が有意義なものとなり、ライチョウ保護とその生息環境保全に向けて、各方面の連携をより一層高める好機とすることを目的にし、「ライチョウ保護から山岳環境保全を考える ～ライチョウ保護とその生息環境保全に向けた連携元年～」を大会テーマに掲げて 2 日間にわたり開催した。

【第 1 日目】

ア　エクスカーション（会場：市立大町山岳博物館）

ライチョウ生息域外保全の現地見学。

イ　ライチョウ保護行政連携会議（会場：サン･アルプス大町）

ライチョウ保護を目的とした自治体間の連携について検討する会議。

ウ　ライチョウサミット シンポジウム（会場：大町市文化会館）

一般向けの公開シンポジウム。今大会のメイン・イベント。

エ　レセプション（会場：大町温泉郷・黒部観光ホテル）

立食形式による懇親会。

【第 2 日目】

オ 専門家会議（会場：サン･アルプス大町）

専門家ライチョウの専門家が最新報告を行い、情報共有・意見交換。

e. 所　見：ライチョウは大町市の鳥で、長野県の県鳥でもある。長野大会では、従来の大会実行委員会の組織に県も加わり、ライチョウ保護とその生息地である山岳環境保全のために、国・県・市町村・民間・有識者等の横断的な連携を構築する初年度と位置付けて「ライチョウサミット」と称し、より実効性のある大会を目指すことができた。多くの皆様に参加いただいたことで、この大会が有意義なものとなり、ライチョウ保護とその生息環境保全に向けて、各方面の連携をより一層高める好機となった。1 日目午前のエクスカーションでは、定員を超える参加があった。2 日目終日の専門家会議では、座席数と同じ参加者数があった。一方、1 日目午後のライチョウサミット シンポジウムでは、座席数を下回った。ラジオやテレビを通じた事前告知や、当日の歌手やタレント出演等、趣向を凝らして参加者の底辺拡大を図ったが、座席を全て埋めることができなかった。例年と比較して格段に参加者が多かった前年度静岡大会の公開シンポジウム（参加者 340 人）より参加者が増えたとはいえ、結果として当初目標としていた座席数に達することができなかったことから、催し案内の周知期間を十分にとるとともに、有効な PR 方法や参加者動員のあり方について、より具体的な検討が必要であった。今回の長野大会は、市立大町山岳博物館と長野県自然保護課が大会実行委員会の事務局を務めた。従来の大会実行委員会の組織に加え、県が一緒になって開催することで、ライチョウ保護とその生息地である山岳環境保全のために、国・県・市町村・民間・有識者等の横断的な連携を構築し、山岳環境保全も視野に入れたより実効性のある大会となった。また、博物館職員と県職員で事務局の実務を役割分担したほか、経費面でも市と県からの負担金を支出していただくことで、より効率的な事業実施が行えた。一方、今後将来の継続した大会開催を見据え、民間企業等からの協賛金を募るなど、開催経費面での多様性を確保する必要があった。

今後の実施にあたっては、本長野大会をモデルとして、今後も大会開催地の市町村等と県等が連携し、サミット形式による開催が望ましいと考える。ただし、大会の予算規模や実施内容については、大会開催地の状況をふまえ、大会ごとに実行委員会等を中心に計画・実行されていくことが望ましいと考える。

(5) 博物館資料の特別利用（調整：関悟志）　※山岳図書資料を除く。館外利用（貸出等）のみ

期　間	目　的	利用者	利用資料・点数
4 月 1 日	書籍掲載	長野県立歴史館	切れたナイロンザイル等の写真データ 8 点
4 月 13 日	新聞掲載	中日新聞大町通信局	大町登山案内者組合関係の写真データ 2 点
4 月 13 日～6 月 12 日	企画展示	岐阜県博物館	スバールバルライチョウの映像 2 点
4 月 28 日、5 月 12・26 日、6 月 9 日	新聞寄稿	個人	キツネ写真データ 5 点
4 月～	大学授業	東北大学非常勤講師	2 階展示室（撮影写真）
5 月 11 日～	調査研究	麻布大学	鳥獣害性調査報告書 3 点
5 月 13 日～8 月 4 日	書籍掲載	信濃毎日新聞社出版部	W・ウェストン関係資料 6 点
5 月 17 日～6 月 3 日	雑誌掲載	宝島社『田舎暮らしの本』	雪形写真データ 3 点
5 月 17 日～9 月 8 日	企画展示	山口県立美術館・松本市美術館他	山岳風景画作品 5 点
5 月 17 日～9 月 8 日	企画展示	山口県立美術館・松本市美術館他	日本山岳会寄託資料（山岳風景画作品）2 点
5 月 18 日	TV 放送(ニュース)	テレビ信州	ライチョウ写真データ 1 点
5 月 19 日	TV 番組制作	テレビ信州	雪形等写真データ 8 点
5 月 31 日～6 月 30 日	新聞取材	信濃毎日新聞社編集局報道部	ライチョウ関係図書資料 2 点
6 月 1 日～7 月 10 日	展示	㈱五竜	山田恭子植物画 10 点
6 月 3～5 日	新聞掲載	信濃毎日新聞社松本本社	手塚順一郎関係資料画像データ 1 点
6 月 6 日～	ウェブサイト掲載	㈱ブラース	館外観・内観等写真データ 6 点
6 月 7 日～	調査研究（講演録作成）	日本山岳会信濃支部	書籍『山岳』、W・ウェストン関係文献コピー一式
6 月 9 日～7 月 8 日	調査研究	信州大学農学部	上高地古写真を含む絵葉書・ポストカードアルバム 2 点
6 月 10 日～	TV 番組制作	長野朝日放送報道部	ライチョウ写真データ 12 点
6 月 16 日	TV 放送	山梨放送	カモシカ写真データ 1 点
6 月 23 日、7 月 7 日	新聞寄稿	個人	キツネ写真データ 3 点
6 月 25 日～	雑誌掲載	㈱カーネルコンセプト	館外観・内観写真データ 5 点
6 月 27 日～8 月 31 日	展示	長野銀行大町支店	手塚順一郎関係写真パネル 7 点、DVD1 点
6 月～7 月	パンフレット掲載	河合広告制作所	館外観写真データ 1 点
7 月 1 日～10 月 31 日	商品券絵柄	大町商工会議所	ライチョウ写真データ 2 点
7 月 5 日～9 月 6 日	企画展示	長野市茶臼山動物園	エチゴウサギはく製 1 点
7 月 6 日～10 月 20 日	企画展示	富山県立山カルデラ砂防博物館	ライチョウ・イヌワシ・ヤマネはく製 6 点
7 月 15 日	TV 番組制作	㈱テレビマンユニオン	W･ウェストン関係資料撮影映像
7 月 19 日～10 月 20 日	企画展示	立教学院展示館	立教大学山岳部ナンダ・コート初登頂関係資料 3 点
7 月 20 日～平成 29 年 3 月 31 日	冊子掲載	松本市教育委員会	上高地関係絵葉書画像データ 5 点
7 月 21 日	新聞寄稿	個人	オオライチョウ写真データ 1 点
7 月 22 日～8 月 31 日	企画展示	市立大町図書館	美術・山岳・図書資料等 101 点
8 月 4 日	新聞寄稿	個人	シャモア写真データ 1 点
8 月 12 日～	雑誌掲載	㈱エイ出版 PEAKS 編集部	百瀬慎太郎・大町登山案内者組合関係写真データ 4 点
8 月 18 日	新聞寄稿	個人	ツキノワグマ写真データ 1 点

9月1・15日	新聞寄稿	個人	カモシカ写真データ2点
9月24日 ～平成29年9月24日	TV番組制作	長野朝日放送	ライチョウ映像3点
9月28日～	調査研究 （比較参考）	南アルプス芦安山岳館	北アルプスの歴史に関するPPTデータ一式
9月29日、10月13日	新聞寄稿	個人	カモシカ写真データ2点
10月15～31日	展示	長野市茶臼山動物園	ライチョウ関係写真PDFデータ一式（パネル用）
10月30日	講演資料	㈱テレビマンユニオン	針ノ木峠周辺概念図等図・写真データ3点
10月	冊子掲載	大町市文化財センター	『山と博物館』掲載写真1点（転載）
10月～平成30年6月	研究大会資料掲載	長野県小中学校長会	山岳風景等の写真データ62点
11月11日	雑誌掲載	アウトライダー編集部	切れたナイロンザイル等写真データ2点
11月16日～	TSB杯放送コンテスト出品作品制作	長野県大町岳陽高等学校放送部	百瀬慎太郎関係写真データ14点
12月4日	TV放送	信州映像舎	ライチョウ舎内作業風景映像
12月15日～	雑誌掲載	㈱エイ出版 PEAKS編集部	百瀬慎太郎・大町登山案内者組合関係写真データ3点
12月22日	新聞寄稿	個人	カモシカ写真データ1点
平成29年1月1日	機関紙掲載	一般社団法人長野県労働基準協会連合会	ライチョウ写真データ2点
平成29年1月5日､2月2日	新聞寄稿	個人	テン、カモシカ写真データ各1点
平成29年1月末～2月上旬	新聞取材	毎日新聞社長野支局	1階展示室、案内人関係写真データ5点
平成29年2月15日 ～3月15日	雑誌掲載	㈱ネイチュアエンタープライズ	雑誌『山と高原』ﾊﾞｯｸﾅﾝﾊﾞｰ計29点
平成29年2月15日～	雑誌掲載	㈱ネイチュアエンタープライズ	茨木猪之吉、中村清太郎制作絵画作品画像データほか6点
平成29年2月25日	書籍掲載	信濃毎日新聞㈱メディア局出版部	百瀬慎太郎関係写真データ 3点
平成29年2月29日～9月30日	チラシ掲載	トラベルプラザ	館外観写真データ1点
平成29年3月22日～7月7日	企画展示	三重県総合博物館	テブ皮、尻当て、カモシカ写真データなど計10点
平成29年3月～	パンフレット掲載	大町登山案内人組合創立100周年記念事業実行委員会	百瀬慎太郎関係写真データ17点
平成29年3月～	書籍掲載	㈱デコ	山川勇一郎制作絵画作品画像データ4点
平成29年3月末～	ウェブサイト掲載	信濃大町アーティストレジデンス協議会	館外観・内観、ライチョウ関係、カクネ里関係写真データ一式
平成29年4月～	書籍掲載	㈱K&Bパブリッシャーズ	館外観・内観・展示風景写真データ7点

このほかにも社会教育施設・研究機関・個人などによる各種照会や報道機関・雑誌編集社などによる各種取材などがあり、随時これらに協力した。

(6) 山岳図書資料館の利用（担当：関悟志）

開館日数	利用者数※			資料閲覧	資料貸出		利用時間
	市内	県内	県外	件数	件数	点数	
316 日	5 人	54 人	47 人	99 件	8 件	113 点	計 40 時間 17 分
	計 106 人			計 107 件			

※資料閲覧と資料貸出との同時利用者を含む

3　執筆・出版

(1) 出版

①出版物

a.『山と博物館』（担当：千葉悟志）

第 61 巻第 3 号（4 月号）～第 62 巻第 2 号（3 月号）を毎月 25 日に発行した。4 月号のみ広報おおまちとともに市内各戸に配布し、それ以外の号は大町市役所をはじめ、社会教育施設等に毎月新号を設置した。あわせて、近隣町村の小中学校に各 10 部を送付した。

発行部数 4 月号：12,000 部・それ以外の号：1,000 部。体裁 A4 判、二ツ折 4 頁)。

本年度中に発行した『山と博物館』の各号は以下の通り。

巻号	月	内　　容
613	4 月	大町市内の博物館群とその連携(1ページ)、さんぱく　昨年の活動から(2～3ページ)、平成28年度年間スケジュール(4ページ)
614	5 月	「北アルプス山麓の自然に蝶が舞う」を終えて(1　ページ)、イベントのご案内・付属園まつり・「山の歴史ウォーキング　体感！　山岳文化都市おおまち－平野口編－」(2～3ページ)、博物館のひろば・企画展「北アルプス山麓の自然に蝶が舞う」講演会およびギャラリートーク・保育園　小学校による企画展見学・市民ホール「さんぱく研究最前線」出張展示・北アルプス広域連合「10　広域研究会」視察による見学・安曇野アートライン銀座 NAGANO 展・『研究紀要』創刊・市立大町山岳博物館顧問の委嘱(3～4ページ)、お知らせ(4ページ)
615	6 月	講演会「山博を通して地域資源の再発見－友の会が支える博物館事業から－」(1ページ)、・付属園だより－山岳博物館におけるライチョウ類飼育の取り組み－(2～3ページ)、イベントのご案内・企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」(4ページ)
616	7 月	企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」の開催にあたって(1 ページ)、付属園だより「どうぶつ写生大会」入賞作品のご紹介(2ページ)、博物館のひろば・付属園アカマツ枯死木の伐採・天理教博物館周辺除草ボランティア・北アルプス雪形まつり　雪形写真展と雪形ウォッチングの開催・大町登山案内人組合創立 100 周年記念事業実行委員会設立総会の開催・付属園まつり・サクラソウ移動栽培展示・ライチョウの営巣調査・神城活断層の借馬トレンチ　鹿島川扇状地の礫層分析・小学校のキャンプ学習支援・大町幼稚園遠足で見学(3～4ページ)
617	8 月	山博！　ライチョウ飼育再開(1 ページ)、さんぱく研究最前線－恋しくて、食事も喉を通らない？－(2～3ページ)、博物館のひろば＆イベントのご案内・PTA 親子レクリエーション・「山の歴史ウォーキング　体感！　山岳文化都市おおまち－平野口編－」・カクネ里雪渓(氷河)学術調査・自然ふれあい講座　みんなで温暖化ウオッチ「セミのぬけがらを探せ！」・さんぱく　こども夏期だいがく－夕闇動物探検隊－(4ページ)
618	9 月	さんぱく　こども夏期だいがく－夕闇動物探検隊－(1ページ)、イベントのご案内・雷鳥～四季を纏う神の鳥～高橋広平写真展・ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」(2～3ページ)、博物館のひろば・市立大町山岳博物館獣医師の委嘱・長野銀行大町支店「山の日」記念ロビー展・日本動物園水族館協会中部ブロック動物写生大会表彰式・青木湖キャンプ出張講座・カクネ里雪渓(氷河)学術調査団報告会および企画展ミュージアムトーク・黒部観光ホテル寄付金受領・高山植物にかかる現地調査・各種教員研修の受け入れ・博物館実習(3～4ページ)

619	10月	「写真家の視点・研究者の視点からーライチョウの魅力にせまるー　高橋広平・小林篤対談」を開催(1ページ)、イベントのご案内・「山の歴史ウォーキング　体感！　山岳文化都市おおまちー木崎湖編ー」(2ページ)、博物館のひろば・「山の日」関連の各種講演会へ講師派遣　山岳資料の市立大町図書館展示・児童クラブ出張講座・友の会サークル「山岳文化研究会」研修・企画展「鹿島槍ヶ岳カクネ里　氷河への道のり」ミュージアムトーク・理科専科教員研修・登山史資料集発行に向けた現地調査・企画展「雷鳥～四季を纏う神の鳥～高橋広平写真展」ミュージアムトーク・花めぐり紀行　高山植物実生観察会・美麻小中学校連携授業「地層を見に行こう！」・職業体験学習(3～4ページ)
6110	11月	ニホンライチョウの飼育(1ページ)、イベントのご案内・長野県環境保全研究所　信州自然講座「生物多様性の宝庫、北アルプス北部の今とこれから」(2ページ)、博物館のひろば・「写真家の視点・研究者の視点からーライチョウの魅力にせまるー　高橋広平・小林篤対談」より・職業体験学習・小学校の社会見学・小学校との理科および社会科連携授業(2～4ページ)
6111	12月	ライチョウ会議長野大会を終えて(1ページ)、博物館のひろば・ライチョウサミット「第17回ライチョウ会議長野大会」の概要(2～3ページ)、展示・休館日などのご案内(3ページ)、博物館のひろば・「山の歴史ウォーキング　体感！　山岳文化都市おおまちー木崎湖編ー」・登山史資料集発行に向けた現地調査・高山植物の生活史研究・カクネ里雪渓(氷河)調査・美麻小中学校社会科・理科連携授業・山岳博物館に寄付金
6112	1月	飼育ライチョウが逃げた事故について・長野県環境保全研究所　信州自然講座「生物多様性の宝庫、北アルプス北部の今とこれから」の開催(1ページ)、さんぱく研究最前線「登山計画書と入山届(登山届)に関した考察」(抜粋)(2～3ページ)、博物館のひろば・企画展「雷鳥～四季を纏う神の鳥～高橋広平写真展」ミュージアムトーク・カルチャーツアー・小学校理科連携授業・スバールバルライチョウ消化管内容物の滞留時間測定調査・付属園の臨時休園
621	2月	逃げたライチョウの捜索経過について(1ページ)、さんぱく研究最前線「大町・白馬アルプスー美しさの秘密ー」(2～3ページ)、博物館のひろば・ミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの？」・植物さく葉標本登録の進捗状況・職業体験学習・小学校理科連携授業・安曇野アートライン展(4ページ)
622	3月	遠見尾根から三山を眺望する(1ページ)、山博コレクションー切れたナイロンザイルと松濤明の手帳ー(2ページ)、動物コラムーカモシカの基礎生物学ー(3ページ)、イベントのご案内＆博物館のひろば・セブンサミッター・山田淳氏講演会「登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来」・大町南小学校　校内化石展・立川第一中学校　校外学習・県内ホテルの冬期日帰りバスツアー(4ページ)

b.『年報』（担当：清水隆寿）

『平成27年度年報』（発行日：平成28年7月31日、発行部数：200部、体裁：A4判、50頁、単色刷り）を編集・発行した。

c.『研究紀要』（担当：関悟志）

当館では、調査研究事業の一層の充実を図ることで、学術的な成果情報を資料収集保管事業や教育普及事業へ展開するという博物館活動の良好な循環体制の構築を進めるため、北アルプスと周辺地域の自然科学、人文・社会科学諸分野の調査研究に関する学術的な成果情報を収録する『研究紀要』を平成27年度に創刊した。

本年度、『市立大町山岳博物館研究紀要 第2号』（発行日：平成29年3月31日、発行部数：500部、体裁：A4判・カラー、68頁）を編集・発行し、関係者や関係機関等へ配布した。なお、本誌バックナンバーについては当館公式ウェブサイト上にてオンライン版（PDF）として公開中。

d.『北アルプス登山史資料3 ―黒部川側からの登山史・後立山南部地域登山史―』（担当：関悟志）

当館では、北アルプス後立山連峰における登山史で、とくに重要な過去の登山のようすを知ることができる資料である文献を集めてまとめた冊子『北アルプス登山史資料』を山域ごとにまとめて編集し、平成22年以降、数年おきに発行してきた。

本年度、資料集の完結編となる『北アルプス登山史資料3 ―黒部川側からの登山史・後立山南部地域登山史―』（発行日：平成29年3月31日、発行部数：300部、体裁：A4判・モノクロ、375頁）を発行した。一連の冊子の編集・発行は、当館でこれまで継続的に実施してきた関連登山史の文献調査とそれにともなう文献資料収集の成果を示したものである。

なお、本誌に収録した文献資料は、当館付属施設として平成24年に開館した「山岳図書資料館」の蔵書を用いて、原典などから活字を文字入力して編集した。また、文字入力の作業については、山岳

博物館友の会サークル「山岳文化研究会」会員にご協力をいただいた。このように、本誌の編集・発行は、同館の蔵書を利活用したもので、この施設の存在意義や担うべき役割に沿う事業であったとともに、市民や地域住民を中心とした友の会との協働による調査研究の好事例となった。

②販売中の出版物

現在、販売中の当館編による出版物は以下の通り（完売のものは除く。平成29年3月31日現在)。

書　　名	発 行 先	発行年	備　考
北アルプス登山史資料3 ―黒部川側からの登山史・後立山南部地域登山史―	市立大町山岳博物館	平成29年	館内にて販売中
H27年度 企画展　北アルプス山麓の自然に蝶が舞う	〃	平成28年	〃
常設展　山と人 北アルプスと人とのかかわり	〃	平成25年	〃
H24年度 企画展　大地はなぞだらけ	〃	平成24年	〃
北アルプス登山史資料2 ―白馬岳周辺登山史―	〃	〃	〃
H23年度 企画展　山岳を科学する2011	〃	平成23年	〃
展示案内　北アルプスの自然と人	〃	平成17年	〃
山と博物館　(H26.2発行の第59巻第2号までのバックナンバーを館内販売)	〃	毎月25日	H26.3発行の第59巻第3号(4月号)からは無料配布中
ブルーガイド旅読本 上高地 安曇野 輝ける大地の自然と人	実業之日本社	平成14年	書店にて販売中
新･北アルプス博物誌	信濃毎日新聞社	平成13年	〃
ライチョウ 生活と飼育への挑戦	〃	平成4年	〃
カモシカ 氷河期を生きた動物	〃	平成3年	〃

4　インターネット・ウェブサイト

(1) 公式ウェブサイト（担当：千葉悟志）

博物館企画展等にあわせ随時、更新を行った。

URL：http://www.omachi-sanpaku.com

5　大町博物館連絡会（担当：西田均）

大町博物館連絡会は本年度旧中村家住宅が加盟し、市内11館により構成。会長は大町エネルギー博物館長が、事務局は当館で担っている。

主な事業は未加盟の2館からも負担金を徴収し「おおまち博物館めぐり案内図」5万部を作成。近隣のホテル・旅館・観光案内所などに配布したほか、観光課、観光協会を通じて県外エージェント、商談会などに提供し誘客を図っている。昨年度から実施している協議会の周知と誘客につなげる方策である共通事業「おおまち博物館めぐりスタンプラリー」を4月1日より2月11日（飴市）までの間実施した。なお、ラリーの景品はオリジナルおおまぴょん缶バッチとし、3館目、5館目で異なったデザインのバッチをプレゼントした。複数館を訪れるきっかけともなっており、ラリー参加者からも好評を得ている。

6　安曇野アートライン推進協議会・博物館美術館部会（担当： 西田均）

安曇野アートライン推進協議会事務局は池田町教育委員会が任期2年の1年目を担った。

また、実働を担う博物館美術館部会の代表館は豊科近代美術館が務めた。部会会議（年間6回開催）のほか、アートラインマップ、サマースクールチラシ発行に係わる事務作業、別記のアートライン展に関わる業務に参画した。

また、安曇野アートラインホームページについて、久しく更新がされず更新作業方法も受け継ぎが不十分であったことから、アートライン事務局の支援も得て最新状況に更新するとともに作業操作マニュアルを入手し、自前で更新が可能な体制を整えた。

7　友の会（担当：千葉悟志）

大町山岳博物館友の会は、会員の知識の向上をはかると共に、山岳博物館の種々の事業に協力することを目的とし、自然観察会、例会・講演会、会報の発行、博物館の事業に参加協力する団体である。

(1) 組織

①役員

a. 会　長　宮澤洋介
b. 副会長　有川美保子、塩瀬淳也
c. 運営部　部長：川崎晃　副部長：宮田京子
部員：川崎祐子、高野淳子、松井昭、松井啓子、丸山優子
d. 編集部　部長：丸山卓哉　副部長：中畑清貴　部員：仙波美代子
e. 事務局　千葉悟志、鳥羽章人、清水隆寿、関悟志、佐藤真
f. 監　査　越山頼子、瀬戸口三栄子
g. 顧　問　千葉彬司、長沢正彦

②構成（平成 29 年 3 月 31 日現在）

会員種別	会員数	会員種別	会員数	会員種別	会員数
ファミリー	57（200 人）	個人会員	63 人	学生会員	0
賛助会員	2（1 団体・1 人）	終身会員	2 人	名誉会員	3 人
合計	270 人				

(2) 運営部

①行事

実施日	参加者	行事名・実施場所など
平成 28 年 4 月 24 日（日）	参加者数 28 人	山博を通して地域資源の再発見－友の会が支える博物館事業から－
平成 28 年 6 月 22 日（水）	募集人員 20 人 参加者数 24 人 参加率 120.0％	「山の歴史ウォーキング　体感！ 山岳文化都市おおまち ―高瀬入編―」
平成 28 年 9 月 11 日（日）	参加者数 32 人	写真家の視点・研究者の視点からライチョウの魅力にせまる
平成 28 年 10 月 30 日(日)	募集人員 20 人 参加者数 11 人 参加率 55％	「山の歴史ウォーキング　体感！ 山岳文化都市おおまち ―木崎湖編―」

(3) 編集部

①会報「ゆきつばき通信」

号数	発行日	主な内容
168 号	平成 28 年 5 月 22 日（日）	報告 山博を通して地域資源の再発見－友の会が支える博物館事業から－ ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会・花めぐり紀行・ 山岳文化研究会
169 号	平成 28 年 9 月 25 日（日）	報告 山の歴史ウォーキング 体感！山岳文化都市大町 ― 平野口編 ― 対談「写真家の視点・研究者の視点からライチョウの魅力にせまる」 カクネ里雪渓（氷河）学術調査団報告会と企画展ミュージアムトーク ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会・花めぐり紀行・ 山岳文化研究会 お知らせ

		ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」
お知らせ版	平成 28 年 11 月 27 日（日）	お知らせ 環保研　信州自然講座 　生物多様性の宝庫、北アルプス北部の今とこれから 信州大学自然科学館　第 3 回ミニシンポジウム 　信州の博物館で何ができるの？
170 号	平成 29 年 3 月 26 日（日）	行事案内 平成 29 年度友の会総会・講演会 講演　登山界の革命児が語る山の魅力と山岳文化の未来 春のバードウォッチング　鷹狩山 報告 山の歴史ウォーキング　体感！　山岳文化都市おおまち　－木崎湖編－ ライチョウサミット「第 17 回ライチョウ会議長野大会」 長野県環境保全研究所　信州自然講座「生物多様性の宝庫、北アルプス北部の今とこれから」 信州大学自然科学館　ミニシンポジウム「信州の博物館で何ができるの？」 ｻｰｸﾙ烏帽子の会・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱの会・花めぐり紀行・山岳文化研究会

（4）サークル活動

①烏帽子の会：　23 人（平成 29 年 3 月 31 日　現在）

活動日	内容	参加者
平成 28 年 5 月 28 日（土）	雨引山（松川村）－総会－	15 人
平成 28 年 7 月 16 日（土）	虫倉山（長野市）	12 人
平成 28 年 9 月 10 日（土）～11 日（日）	船窪	13 人
平成 28 年 10 月 22 日（土）	福知山（高山市）	11 人
平成 29 年 2 月 4 日（土）	福知山（高山市）	8 人
平成 29 年 4 月 1 日（土）	冠着山（筑北村・千曲市）	14 人

②ボランティアの会：27 人（平成 29 年 3 月 31 日　現在）

項目	活動日	内容	参加者
山と博物館封入及び環境整備活動	4 月 29 日（金）	山と博物館封入作業	12 人
	5 月 22 日（日）	山と博物館封入作業	11 人
	6 月 26 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	12 人
	7 月 24 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	10 人
	8 月 28 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	12 人
	9 月 25 日（日）	山と博物館封入作業と施設周辺の除草	11 人
	10 月 23 日（日）	山と博物館封入作業	10 人
	11 月 27 日（日）	山と博物館封入作業	5 人
	12 月 25 日（日）	山と博物館封入作業	12 人
	1 月 22 日（日）	山と博物館封入作業	11 人
	2 月 26 日（日）	山と博物館封入作業	15 人
	3 月 26 日（日）	山と博物館封入作業	12 人
サクラソウ展示作業	4 月 23 日（土）	サクラソウ除草展示に関わる作業	8 人
	4 月 24 日（日）	サクラソウ除草展示に関わる作業	7 人
	4 月 29 日（日）	サクラソウ移動展示作業（搬出）・封入作業	12 人
	5 月 22 日（日）	サクラソウ移動展示作業（搬入）	11 人

	5 月 2 日（月） ～5 月 21 日（土）	サクラソウ灌水（大町駅周辺）	（延べ 9 人）35 回
ライチョウ事業協力	12 月 10 日（土） ～12 月 23 日（金）	ライチョウ逸出にかかる捜索 10 日～14 日≒15 人 15 日～23 日＝55 人	延べ 17 人≒70 回
	9 月 11 日（日）	対談　ライチョウの魅力に迫る　受付	3 人
	10 月 15 日（土） ～10 月 16 日（日）	ライチョウサミット　全般	17 人
ガイド活動	4 月 29 日（日）	館内ガイド	2 人
	4 月 29 日（金） ～5 月 5 日（木）	写生大会受付及び館内ガイド	延べ 9 日 21 人
	6 月 4 日（日）	針ノ木慎太郎祭自然観察班協力	3 人
	8 月 11 日（木） ～8 月 15 日（月）	館内ガイド	4 人
研修	11 月 6 日（日）	バス利用の研修伊那谷 御池山隕石クレーターと日本のチロル「下栗」	21 人

③花めぐり紀行　：14 人（平成 29 年 3 月 31 日 現在）

活動日	内容	参加者
平成 28 年 4 月 10 日（日）	総会および自然観察会（居谷里湿原）	7 人
平成 28 年 5 月 1 日（日）	戸隠森林植物園をめぐる（長野市）	7 人
平成 28 年 6 月 15 日（水）	スカシユリ自生地をめぐる（角田山）	6 人
平成 28 年 7 月 3 日（日）	田ノ原湿原をめぐる（山ノ内町）	8 人
平成 28 年 9 月 4 日（日）	第１回 高山植物の実生観察会（山博）	4 人

平成 28 年 5 月 4 日（水・祝）	居谷里湿原自然観察会講師	2 人
平成 28 年 7 月～平成 29 年 3 月	植物さく葉標本づくり（山博）	延べ 88 人

④山岳文化研究会　：9 人（平成 29 年 3 月 31 日 現在）

活動日	内容	参加者
平成 28 年 5 月 12 日（木）	第 1 回定例会	6 人
平成 28 年 8 月 11 日（木・祝）	研修事業（兼第 2 回定例会）【上高地】	8 人
平成 28 年 12 月 1 日（木）	第 3 回定例会	6 人
平成 29 年 2 月 23 日（木）	第 4 回定例会	4 人

8　ライチョウ会議（担当：鳥羽章人・佐藤真）

(1) ライチョウ会議

ライチョウ会議（議長：信州大学 中村浩志特任教授）は、日本アルプスとその周辺に生息するライチョウに関する情報交換と、調査及び研究の連携を図ること、ライチョウに関する知識の普及と啓発を行うことを目的として設置された組織である。当館はその事務局を議長より委嘱されており、会議の運営にあたる事務連絡、諸経費の管理を行っている。また、館長が構成員となっている。構成員の運営によって年 1～2 回程度会議を開催（構成員として館長出席）し、事務局として当館では、会議開催の調整・通知、会議資料作成などの事務を行っている。

(2) 第 17 回ライチョウ会議長野大会

ライチョウ会議大会は、大会開催地の関係者を中心に実行委員会を組織して年１回開催している。この大会では、各分野の研究者・行政等が集まり、ライチョウに関する調査・研究の充実と、現状を把握し具体的な保護活動に結びつけるための意見交換などを行い、連携を強めるとともに、ライチョウについての知識の普及・啓発を行っている。そして、ライチョウをはじめとした野生動植物の生息環境を含めた保護と、人との共存の道を探ることにつなげるために毎年開催されている。

第 17 回となる本長野大会では、従来の大会実行委員会の組織に県も加わりライチョウ保護とその生息地である山岳環境保全のために、国・県・市町村・民間・有識者等の横断的な連携を構築する初年度と位置付けて「ライチョウサミット」と称し、より実効性のある大会を目指した。

より多くの皆様に参加いただくことで、この大会が有意義なものとなり、ライチョウ保護とその生息環境保全に向けて、各方面の連携をより一層高める好機とすることを目的にし、「ライチョウ保護から山岳環境保全を考える ～ライチョウ保護とその生息環境保全に向けた連携元年～」を大会テーマに掲げて平成 28 年 10 月 15 日（土）～16 日（日）に開催された。

①10 月 15 日(土)

【第 1 日目】

ア　エクスカーション（会場：市立大町山岳博物館）
ライチョウ生息域外保全の現地見学。

イ　ライチョウ保護行政連携会議（会場：サン･アルプス大町）
ライチョウ保護を目的とした自治体間の連携について検討する会議。

ウ　ライチョウサミット シンポジウム（会場：大町市文化会館）
一般向けの公開シンポジウム。今大会のメイン・イベント。

エ　レセプション（会場：大町温泉郷・黒部観光ホテル）
立食形式による懇親会。

②10 月 16 日(日)

【第 2 日目】

オ 専門家会議（会場：サン･アルプス大町）
専門家ライチョウの専門家が最新報告を行い、情報共有・意見交換。

Ⅳ　動植物飼育栽培繁殖事業

1　動物飼育繁殖（担当：佐藤真・宮野典夫・戸谷諭美・遠藤モナミ・内田木野実・多田晴彦）

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプスの山麓から高山までの生物を栽培・飼育し、生きている姿を見ていただくという考え方を大切にし、以下の基本方針を定めている（平成 24 年度策定）。

○生体展示…生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。
○教育普及への活用…飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。
○傷病鳥獣の救護…傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。
○希少種の保護…希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。
○施設整備の充実…付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

当館の基本理念と上記の基本方針に基づき、付属園（動植物園）では、希少野生動物繁殖事業、アルプス動物園友好提携事業（交換動物）、野生傷病鳥獣救護事業（受託事業）を実施し、それら事業にかかわり動物飼育繁殖事業を含む博物館事業（資料収集保管事業、調査研究事業、教育普及事業）を行っている。

現在、希少野生動物繁殖事業ではニホンカモシカとニホンライチョウを飼育し、野生傷病鳥獣救護事業では大町市周辺で救護された野生動物を飼育している。なお、アルプス動物園友好提携事業での交換動物は現在飼育していない。

飼育動物（平成 29 年 3 月 31 日現在）　（単位：個体）

種　名	雄	雌	不明	計	種　名	雄	雌	不明	計
ニホンカモシカ	1	3		4	トビ			8(8)	8(8)
ホンドタヌキ	1(1)			1(1)	フクロウ			1(1)	1(1)
ホンドギツネ	1(1)			1(1)	チョウゲンボウ	1(1)	1(1)		2(2)
ハクビシン	2(2)	1(1)		3(3)	キジバト			2(2)	2(2)
					キジ	2(1)	1(1)		3(2)
					カルガモ			1(1)	1(1)
					アオクビアヒル	1(1)			1(1)
					スバールバルライチョウ		3	0	3(0)
					ニホンライチョウ	2	1		3(0)
計	5(4)	4(1)		9(5)	計	6(3)	6(2)	12(12)	24(17)

・哺乳類　4（4）種・9（5）個体
・鳥類　　9（7）種・24（17）個体　　合計　13（11）種・33（22）個体
※括弧内の数は救護動物の種数・個体数

(1) 希少野生動物繁殖

当館ではニホンカモシカ、ニホンライチョウ、イヌワシなどの希少野生動物の繁殖に取り組んできた経緯がある。本年度よりニホンライチョウの飼育を再開し、乗鞍岳で採卵した卵の孵化と育雛に取り組んだ。また、継続してニホンカモシカの飼育を行っているが、繁殖は行っていない。なお、現在はイヌワシの飼育を行っていない。

①ニホンカモシカ

a. 出生・導入個体

なし。

b. 死亡個体

平成 28 年 6 月 26 日にメス 1 個体死亡。推定年齢 27 歳。
平成 28 年 10 月 8 日にオス 1 個体死亡。推定年齢 25 歳以上。

c. 転出個体

現在、ブリーディングローンとして付属園内で繁殖したニホンカモシカを富山市ファミリーパーク（メス・愛称さくら、平成 15 年～）と、埼玉県こども動物自然公園（オス・愛称クロベ、平成 21 年～）に各 1 個体貸出し中。

d. 今後の計画

新たな野外個体の導入が困難なことから、若い個体の確保を目的として繁殖を行いたいが付属園の設備、特にカモシカ飼育施設の整備が整うまで計画を保留にする。また、国内動物園間でブリーディングローンを行うことを視野に入れ、他の飼育園館に向けて情報共有を行う。

②ライチョウ

a. 経過

国の「ライチョウ保護増殖計画」の具体的な取り組みとして平成 26 年 11 月に環境省から「ライチョウ生息域外保全実施計画」が示され、ニホンライチョウの近縁種であるスバールバルライチョウの飼育・繁殖を進めてきた日本動物園水族館協会に加盟している園館（東京都恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、いしかわ動物園、長野市茶臼山動物園、多摩動物公園、横浜繁殖センター）での成果が評価され、平成 27 年度からニホンライチョウの域外保全が上野と富山で実施された。

平成 27 年度の成育個体にはメスがいなかったため、平成 28 年度 6 月 21 日に乗鞍岳にて新たに 12 個の種卵を採取し、東京都恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、そして当館でそれぞれ 4 個ずつの受け入れを行った。飼育園館で事前協議を重ね、共通の方針を持って孵化・育雛に取り組み、育雛期間には毎日の健康状態を情報共有した。

大町での孵化は 6 月 30 日、7 月 1 日に 4 羽（オス 2 羽・メス 2 羽）が孵化した。給餌飼料は他の飼育園館とは異なり、過去の大町市での野外調査や飼育経験で有効であると考えられた独自の自家配合飼料を用い、飼育を行った。ライチョウ舎東棟において、33・34 日齢までは育雛器内で飼育を行い、34・35 日齢以降は平飼い施設を活用した飼育を行った。個体同士のつつきによる脱羽、ふらつきや跛行などの足に若干の異常が見られる時期もあったが、全ての個体は順調に体重増加し、糞の大きな乱れもなく健康状態も良好であった。

繁殖準備のために、12 月 9 日に全個体をライチョウ舎中央棟に移動させ、翌日 12 月 10 日に朝の清掃を行った時に、排煙窓からライチョウ 2 羽（雌雄 1 羽ずつ、163 日齢）が逸出してしまう事故があった。市職員やボランティアの方々のご協力の下、捜索を行ったところ、事故当日の内に博物館から約 450m の藪の中でオスを発見し、保護した。一方で、メスも捜索を継続しておこない、市民の方々からの情報提供も多くいただいたが、発見・保護には至っておらず、現在も目撃情報の提供を呼び掛けている。

平成 28 年度末、東京都恩賜上野動物園と富山市ファミリーパーク、当館にて、計 14 羽（オス 11 羽、メス 3 羽）を飼育中である。各園館にメスが 1 羽ずついるため、平成 29 年度の繁殖に向けて準備を進めている。

スバールバルライチョウについて、平成 27 年よりブリーディングローン及び卵の譲渡により孵化・育雛に取り組み、計 7 羽の飼育を継続していたが、7 月 6 日に 2 羽、7 月 7 日に 1 羽、8 月 17 日に 1 羽のオスが死亡した。長野県松本家畜保健衛生所に病性鑑定を依頼したところ、細菌やウイルスは検出されなかったが、肝臓や腎臓に鉄由来の沈着が過剰にみられ、肝臓鉄貯蔵病であると診断された。メス個体についても同時期に糞の乱れはあったものの、その後回復し、現在はメス 3 羽の飼育を継続し、ローテーションで 1 個体の展示を行っている。

b. 施設整備

平成 30 年に竣工予定の新しいライチョウ舎の設計を株式会社 KRC に委託し、実施した。設計の過程で、地質調査及び付属園全域の測量が必要であり、施設設計業務を平成 29 年度まで延長した再契約を行った。

(2) 傷病鳥獣救護

傷病鳥獣救護については、野生動物の保護や近隣住民への教育的配慮の視点から行なってきたが、平成 9 年度からは長野県の指導を受け、平成 17 年度からは、長野県の野生傷病鳥獣救護事業委託を受け、大北地域における野生傷病鳥獣救護施設として、ケガや病気の野生動物を収容している。

ライチョウの飼育再開に伴い、平成 27 年度に引き続き傷病鳥獣の新規受け入れを行っていない。

なお、平成 26 年度までに収容された傷病鳥獣について飼育を行い、救護事業への寄与を継続して行っている。

(3) アルプス動物園交換動物

友好提携を結んでいるオーストリア・インスブルック市のアルプス動物園から交換動物として贈られたヨーロッパ・チロル地方の野生動物（アルプスマーモット、ヨーロッパオオライチョウ、シベリアオオヤマネコ、シャモア）を昭和 60 年（1985）から平成 23 年（2011）まで飼育していたが、現在は飼育個体がいない。

2　植物栽培繁殖（担当：千葉悟志）

(1) 栽培植物

①栽培植物の増減

減：栽培困難による（ミヤマダイモンジソウ、コイワカガミ、アオノツガザクラ、ツガザクラ、イワウメ）

②栽培植物

アズミノヘラオモダカ（長野県絶滅危惧ＩＡ類）、イヤリトリカブト（長野県絶滅危惧ＩＡ類）、トガクシソウ（長野県絶滅危惧ＩＡ類）、ビッチュウフウロ（長野県絶滅危惧ＩＢ類）、サクラソウ（長野県絶滅危惧Ⅱ類、長野県希少野生植物指定種）、トキソウ（絶滅危惧Ⅱ類）、ササユリ（長野県準絶滅危惧・長野県指定希少野生植物指定種）、カキツバタ（長野県準絶滅危惧）、フクジュソウ（長野県準絶滅危惧）、コオニユリ、クサレダマ、ミズオトギリ、エゾミソハギ、ミズバショウ、リュウキンカ、サワギキョウ、モウセンゴケ、コマクサ、ズダヤクシュ、キバナノコマノツメ、オヤマリンドウ、ハクサンフウロ、ミヤマセンキュウ、クロトウヒレン、ヤマガラシ、ミネウスユキソウ、ミヤマトウキ、ミヤマゼンゴ、ミヤマオトコヨモギ、ミヤマダイコンソウ、ヤマブキショウマ、コケモモ、マイヅルソウ、ミヤマコウゾリナ、クロユリ、ガンコウラン、クロマメノキ、ハクサンコザクラ、ハクサンボウフウ、チングルマ、タカネナナカマド、ミヤマタネツケバナ、ヒメクワガタ、クロウスゴ、ベニバナイチゴ、ミツバオウレン、ウラジロナナカマド、ホンドミヤマネズ、ミヤマキンポウゲ、オンタデ、イワギキョウ、イブキトラノオ、タカネマツムシソウ、ハクサンタイゲキ、カライトソウ、イワオウギ、ミヤマクワガタ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ゼンテイカ、タテヤマウツボグサ、ゴゼンタチバナ、トモエシオガマ、コマガタケスグリ、コメススキ、ミヤマコゴメグサ、ハクサンシャクナゲ、ハイマツ、ヤマブキショウマ、シナノオトギリ、アイヌソモソモ、ヨツバシオガマ、アキギリ

③概要

コマクサ園・湿原植物園のほか、付属園内でササユリの栽培展示を行っている。高山植物に関しては、敷地内で植え替えを行いながら栽培を行っている。開花期を中心に解説パネルを準備し、生活史や生物間関係について紹介。

Ⅴ　その他

1　各種委員等の委嘱他

環境省ライチョウ保護増殖検討委員（宮野典夫）
全国山岳博物館等連絡会議［主催：公益社団法人日本山岳会］（関悟志）
長野県博物館協議会・監査（鳥羽章人）
信州大学・大町市連携協議会委員（鳥羽章人）
長野県科学振興会大町支部・理事（千葉悟志）
高山植物等保護対策協議会中信地区・監査（鳥羽章人）
北アルプス北部地区山岳遭難防止対策協会・参与（鳥羽章人）
大町市文化財保護審議委員（矢野孝雄）
おおまち達人検定委員会（鳥羽章人）
北アルプス雪形まつり実行委員（清水隆寿）
信濃大町山岳フェスティバル実行委員会　実行委員（鳥羽章人）　幹事（関悟志）
大町登山案内人組合創立 100 周年記念事業実行委員会　実行委員（鳥羽章人）　幹事（関悟志）
ライチョウ会議構成員（宮野典夫）
針ノ木岳慎太郎祭実行委員会・副大会長（鳥羽章人）
大北地区野生鳥獣保護管理対策協議会・理事（鳥羽章人）
安曇野アートライン推進協議会・幹事（鳥羽章人）、博物館美術館部会（西田均）
大町博物館連絡会　理事（鳥羽章人）　幹事（西田均）
　〃　　代表　大町市観光協会／イベント実行委員会・理事（鳥羽章人）
　〃　　代表　大町市青少年育成協議会・理事（関悟志）
大町桜まつり実行委員（鳥羽章人）
第５次国版レッドリスト長野県主任調査員（千葉悟志）

2　アルプス動物園との友好提携協定の締結

昭和 60 年 2 月 18 日、オーストリア・インスブルック市のアルプス動物園と当館は、次のような目的による友好提携協定について締結をした。
「同じような自然環境に囲まれたインスブルックと大町両市の市長は、その締結を大いに歓迎し、また両市民は文化をはじめさまざまな分野において、緊密な交流をはかり、それを通じて相互信頼と友好を深め、将来にわたって、インスブルック市と大町市の繁栄と幸福のために貢献する。」（同協定書より抜粋）
平成 27 年 4 月 8 日、友好提携 30 周年を記念し、友好提携再締結をした。

3　信州大学山岳科学研究所との研究協力協定の締結

平成 17 年 7 月 5 日、信州大学山岳科学総合研究所と当館は、次のような目的による研究協力協定について締結をした。
「山岳および大町市とその周辺地方の民俗、歴史などの資料を収集、保管、展示し一般の観覧に供し、本邦における山岳文化などの普及並びに調査研究を行う市立大町山岳博物館と、信州の自然と社会をフィールドとして、山岳及びそれに連なる里山における自然と人間の相互関係にかかわる諸問題の解決を目指した研究を行い、新しい学問領域「山岳科学」を創造しようとする信州大学山岳科学研究所は、相互の連携の意義を深く認識し、自然と人間の共生の諸課題探求に力をあわせて貢献するため、ここに研究協力協定を締結する。」（同協定書より抜粋）

4　長野県環境保全研究所との連携・協力に関する協定の締結

平成 26 年 3 月 25 日、長野県環境保全研究所と当館は、次のような目的による連携・協力に関する

協定について締結をした。

長野県を特徴づける山岳域の自然とその環境保全にかかわる諸課題の解明や解決に力をあわせて取り組むことが、学術振興や自然環境保全、そして地域の発展に重要な役割を果たすことを深く認識し、両機関が、調査研究・教育普及・人材育成等、相互協力が可能な事項について、互恵の精神に基づき具体的な連携・協力を効果的に実施することにより、学術の振興及び自然環境保全に寄与するとともに、地域の発展に貢献することを目的として連携・協力に関する協定を締結する。(同協定書より抜粋)

5　ライチョウ類の飼育技術の提携に関する協定の締結

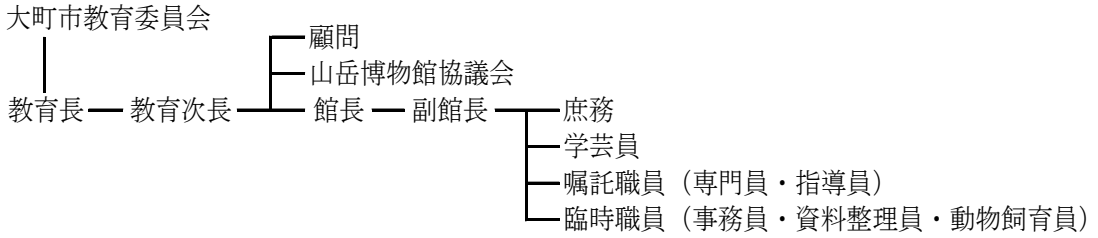
平成 27 年 6 月 18 日、公益財団法人富山市ファミリーパーク公社と当館は、次のような目的による連携に関する協定について締結をした。

ニホンライチョウは国の特別天然記念物にも指定されている日本を代表する鳥類であるが、近年は絶滅が危惧され、国の保護増殖事業計画種にも指定されている。両園館は互いに隣接する、ニホンライチョウの生息県に所在する園館として、ニホンライチョウの保護増殖を目的に、ライチョウ類の飼育繁殖技術の連携に関する協定を締結する。(同協定書より抜粋)

Ⅵ　運営

1　組織および職員構成

(1) 組織



(2) 顧問

千葉彬司、中村浩志、小坂共栄（平成 28 年 3 月 1 日～）

(3) 協議会委員

学校教育および社会教育の関係者：山崎茂則、宮澤洋介
家庭教育の向上に資する活動を行う者：柳澤英幸、赤坂隆宏
学識経験のある者：岡田忠興、鈴木啓助、佐藤悟、陸斉、小松令子、須田哲
公募による市民等：丸山祥子

(4) 職員

①配置

館　　長　鳥羽章人
副 館 長　清水隆寿（人文科学系学芸担当兼庶務）
学 芸 員　千葉悟志（自然科学系植物担当）、関悟志（人文科学系担当）、佐藤真（自然科学系動物担当）
専 門 員　矢野孝雄（自然科学系地質担当）
指 導 員　西田均（資料･環境整備担当）、宮野典夫（学芸担当）
臨時職員　北村洋子（事務員兼資料整理員）
　　戸谷諭美、遠藤モナミ、内田木野実、多田晴彦（動物飼育員）

②人事異動

新　　規　専門員　矢野孝雄（平成 28 年 4 月 1 日）
　　動物飼育員（臨時職員）　多田晴彦（平成 28 年 4 月 1 日）
退　　職　動物飼育員（臨時職員）　戸谷諭美（平成 29 年 3 月 30 日）
　　事務員兼資料整理員（臨時職員）　北村洋子（平成 29 年 3 月 30 日）

2　市立大町山岳博物館協議会

協議委員任期：平成 27 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日（2 年間）
協議委員名簿：山崎　茂則（学校教育関係者）
　　宮澤　洋介（社会教育関係者）　※協議会会長
　　柳澤　英幸（家庭教育活動者）
　　赤坂　隆宏（家庭教育活動者）
　　岡田　忠興（学識経験者）　※協議会副会長
　　鈴木　啓助（学識経験者）
　　佐藤　悟　（学識経験者）
　　陸　　斉　（学識経験者）
　　小松　令子（学識経験者）
　　須田　哲　（学識経験者）
　　丸山　祥子（公募市民）

(1) 平成 28 年度 第 1 回協議会

①日時：平成 28 年 7 月 29 日（金）13：30～15：00

②場所：山岳博物館　講堂

出席者：山崎茂則、宮澤洋介、柳澤英幸、赤坂隆宏、岡田忠興、鈴木啓助、陸斉、
小松令子、須田哲、丸山祥子

③内容：・報告

・平成 28 年度事業の進捗について

・協議

・付属園の整備計画の変更について

(2) 第 2 回協議会

①日時：平成 29 年 3 月 24 日（金）13：30～15：00

②場所：山岳博物館　講堂

出席者：宮澤洋介、柳澤英幸、岡田忠興、鈴木啓助、佐藤悟、陸斉、須田哲、丸山祥子

③内容：・報告

・平成 28 年度事業の進捗状況について

・平成 29 年度事業の概要について

・協議

・ライチョウ舎の建設について

3　入館者状況

(1) 過去の入館者状況

（単位：人）

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校生	小中生	大人	高校生	小中生			65歳以上	小中生		
S26	291		100	21		77	489					489
27	2,425		1,022	186		1,514	5,147					5,147
28	8,922		2,229	725		1,216	13,092					13,092
29	7,779		1,831	625		1,189	11,424					11,424
30	6,831		1,664	1,445		945	10,885					10,885
31	2,148		888	1,036		858	4,930					4,930
32	1,934		658	826		1,880	5,298					5,298
33	2,979		1,032	1,469		2,417	7,897					7,897
34	2,972		626	1,727		1,788	7,113					7,113
35	3,635		878	1,943		2,143	8,599					8,599
36	4,181		1,329	2,132		2,521	10,163					10,163
37	5,313		1,633	4,549		2,748	14,243					14,243
38	6,394		1,854	4,727		2,918	15,893					15,893
39	10,464		1,658	12,600		1,520	26,242					26,242
40	14,214		1,696	8,050		1,600	25,560					25,560
41	10,399		1,711	13,070		1,500	26,680					26,680
42	12,891		1,649	8,301		3,059	25,900					25,900
43	18,458		2,071	17,769		3,240	41,538					41,538
44	16,273		2,100	10,845		3,749	32,967					32,967
45	13,405		1,941	11,623		3,960	30,929					30,929
46	18,414		3,001	14,718		3,193	39,326					39,326
47	17,500		3,025	13,268		6,877	40,670					40,670
48	25,809		4,178	22,612		5,774	58,373					58,373
49	28,702		4,277	23,432		5,843	62,254					62,254
50	32,345		4,896	23,616		6,835	67,692					67,692
51	32,111		5,142	25,150		8,200	70,603					70,603
52	26,155		4,311	18,907		5,327	54,700					54,700
53	26,346		4,158	24,903		8,722	64,129					64,129
54	27,769		4,485	25,089		6,600	63,943					63,943
55	25,743		4,414	19,909		6,972	57,038					57,038
56	31,697		7,558	16,182		9,695	65,132					65,132
57	31,894	809	6,400	10,391	5,827	6,929	62,250	7,965			7,965	70,215
58	33,590	988	6,632	15,885	7,992	12,303	77,390	9,026			9,026	86,416
59	30,335	816	5,905	12,969	9,172	15,070	74,267	8,117			8,117	82,384
60	36,686	1,142	8,025	22,782	8,559	15,902	93,096	6,770			6,770	99,866
61	34,797	1,086	6,109	16,001	8,107	16,069	82,169	4,509			4,509	86,678
62	33,132	918	5,581	18,751	7,065	17,186	82,633	3,605			3,605	86,238
63	36,116	841	5,932	14,947	6,085	14,735	78,656	6,269			6,269	84,925
H1	41,018	1,199	6,450	13,191	4,650	10,527	77,035	3,709			3,709	80,744
2	43,444	1,108	6,752	16,486	3,045	7,119	77,954	4,844			4,844	82,798
3	47,004	1,276	7,313	13,817	4,212	8,278	81,900	4,577			4,577	86,477

年度	有料入館者							無料入館者				合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内		小計	
	大人	高校	小中	大人	高校	小中			65歳以上	小中生		
4	42,197	725	5,719	13,068	1,687	7,015	70,411	3,413			3,413	73,824
5	45,182	809	5,807	12,249	2,807	5,325	72,179	3,587			3,587	75,766
6	38,354	933	4,809	10,561	1,932	4,974	61,563	3,376			3,376	64,939
7	37,356	981	4,650	9,493	1,840	4,164	58,484	5,376			5,376	63,860
8	36,002	869	4,189	6,601	1,905	2,244	51,810	2,174			2,174	53,984
9	31,119	626	3,417	7,626	1,245	2,100	46,133	1,429			1,429	47,562
10	28,219	637	3,105	6,023	764	2,006	40,754	1,686			1,686	42,440
11	24,220	482	2,200	4,766	561	1,183	33,412	1,206			1,206	34,618
12	23,082	501	2,273	5,344	648	1,024	32,872	1,187			1,187	34,059
13	24,064	439	2,163	3,389	671	1,577	32,303	1,497	387	826	2,710	35,013
14	20,527	472	1,744	2,518	675	808	26,744	1,013	191	451	1,655	28,399
15	19,693	535	2,152	2,184	785	1,082	26,431	990	285	616	1,891	28,322
16	14,664	376	1,073	2,875	602	644	20,234	604	51	662	1,317	21,551
17	12,065	213	630	3,138	692	928	17,666	1011	97	491	1,599	19,265
18	14,056	135	996	3,120	545	1,836	20,688	1,825	162	688	2,675	23,363
19	10,991	120	742	2,401	407	1,037	15,698	1,087	94	693	1,874	17,572
20	11,532	130	803	2,766	381	578	16,190	1,518	188	619	2,325	18,515
21	11,269	100	704	3,055	61	1,098	16,287	1,164	143	348	1,655	17,942
22	9,578	103	594	2,665	466	467	13,873	955	116	203	1,274	15,147
23	12,363	127	855	2,963	328	1,396	18,032	2,032	146	819	2,988	21,020
24	9,818	144	640	2,344	498	587	14,001	1,255	94	783	2,132	16,133
25	7,550	97	522	2,008	142	353	10,672	970	162	432	1.565	12,237
26	12,249	120	892	3,146	655	370	17,432	2,450	422	615	3,487	20,920
27	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	572	3,136	18,242
28	9,774	98	709	2442	433	540	13,996	2,008	127	759	2,894	16,890
計	1,328,875	20,026	195,297	606,140	85,888	282,944	2,519,170	105,533	2,879	9,554	117,966	2,637,136

(2) 平成 28 年度の入館者状況　　（単位：人）

月	有料入館者							無料入館者			小計	合計
	個人			団体			小計	一般減免	市内			
	大人	高校	小中生	大人	高校	小中生			65 歳以上	小中生		
4	694	8	30	154	0	36	922	186	23	72	281	1,203
5	1,253	7	81	262	2	13	1,618	241	27	87	355	1,973
6	574	3	27	94	227	2	927	238	7	92	337	1,264
7	1,063	6	63	339	195	404	2,070	220	10	44	274	2,344
8	1,666	56	309	334	7	35	2,407	266	19	28	313	2,720
9	1,103	1	39	326	1	4	1,474	159	6	234	399	1,873
10	1,289	3	45	330	0	4	1,671	279	9	21	309	1,980
11	809	2	18	150	1	4	984	101	12	68	181	1,165
12	309	3	15	42	0	5	374	26	3	82	111	485
1	184	2	21	26	0	8	241	180	0	0	180	421
2	299	1	16	297	0	1	614	52	0	9	61	675
3	531	6	45	88	0	24	694	60	11	22	93	787
計	9,774	98	709	2,442	433	540	13,996	2,008	127	759	2,894	16,890
前年	10,427	101	795	2,729	444	610	15,106	2,350	214	572	3,136	18,242
前年度比	94%	97%	89%	89%	98%	89%	93%	85%	59%	133%	92%	93%

(3) 平成 28 年度の開館日数

全 320 日

4　平成 28 年度予算・決算

(1) 歳入　　（単位：円）

項　目	観覧料	県委託金	雑　入	市債	計
当初予算	5,084,000	163,000	346,000		5,593,000
決算額	5,100,985	163,000	1,183,684		6,447,669
	16,985	0	837,684	0	854,669

(2) 歳出　　（単位：円）

項目	一般職員人件費	管理運営一般経費	教育普及事業	調査研究事業	資料収集保管事業
当初予算	36,030,000	23,090,680	6,742,200	4,633,000	4,124,000
決算額	37,960,789	21,071,441	5,918,227	3,489,301	3,525,443
	1,930,789	△2,019,239	△823,973	△1,143,699	△598,557

項目	動植物飼育栽培事業	ライチョウ飼育事業	付属園整備事業		計
当初予算	9,783,500	18,840,563	53,575,800		156,819,743
決算額	9,023,662	9,561,779	8,799,300		99,349,942
	△759,838	△9,278,784	△44,776,500		△57,469,801

5　ミュージアムショップ・カフェ　（担当：清水隆寿）

平成 6 年 7 月 1 日より、山博友の会が運営していたミュージアムショップ・カフェ「こまくさ」が平成 25 年 11 月 4 日をもって終了し、平成 26 年 4 月より新たな経営者を募集して営業にあたることとなった。平成 28 年度も下記業者が継続して業務を行った。

(1) 受託者

・氏　名：山内優
・名　称：ミュージアムショップ・カフェ「もるげんろーと」

(2) 使用期間

・平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日まで（3 年間）

(3) 平成 29 年度以降の運営体制について

・平成 28 年 3 月末をもってミュージアムショップ・カフェの運営が終了することから、平成 28 年度中に新たな経営者の選定業務を行った。

選定にあたっては、企画提案方式（プレゼンテーション）とし、第一次審査は書類審査とし、第二次審査をプレゼンテーション審査と定め、平成 29 年 1 月号の大町市広報に応募要領を掲載し募集を行った。契約期間は平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日（3 年間まで更新可能）までとした。

その結果、応募者は山内優氏（ミュージアムショップ・カフェ「もるげんろーと」）のみだったことから、平成 29 年 2 月 15 日付け運営業者を決定し、平成 29 年 4 月以降についても山岳博物館ミュージアムショップ・カフェの経営を行っていただくこととなった。

Ⅶ　関係条例規則

1　市立大町山岳博物館条例

昭和 57 年 3 月 29 日
条例第 12 号

市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）の全部を改正する。

（目的）

第 1 条　この条例は、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号。以下「法」という）第 18 条及び地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 244 条の 2 第 1 項の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の設置及び管理運営に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

（設置）

第 2 条　山岳に関する資料並びにこの地方における民俗、歴史その他の資料を収集して、保管又は展示し、一般の観覧に供し、本邦における山岳文化等の普及並びにこれらの資料の調査研究を行うため博物館を設置する。

（名称及び位置）

第 3 条　博物館の名称及び位置は、次のとおりとする。

市立大町山岳博物館　大町市大町 8056 番地 1

（職員）

第 4 条　法第 4 条の規定による館長、学芸員のほか必要な職員を置く。

2　必要に応じ顧問及び嘱託員を置くことができる。

（観覧料）

第 5 条　博物館を観覧しようとする者は、別表に定める観覧料を納付しなければならない。ただし、次に掲げる者は、この限りでない。

(1) 6 歳未満の者
(2) 市内の小学校及び中学校に在学する児童又は生徒
(3) 市内に住所を有する満 65 歳以上の者

（観覧料の減免）

第 6 条　教育委員会は、特別な理由があると認めるときは、観覧料を減免することができる。

（資料の特別利用）

第 7 条　博物館資料を学術研究等のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

（賠償責任）

第 8 条　故意又は過失により、博物館の資料、施設等を破損し、又は滅失したときは、教育委員会の命ずるところにより、これを原状に復し、又は損害を賠償しなければならない。

（博物館協議会）

第 9 条　法第 22 条の規定により、市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）を設置する。

2　協議会の委員（以下「委員」という）は 15 人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 学校教育及び社会教育の関係者
(2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
(3) 学識経験のある者
(4) 公募による市民等

3　委員の任期は、2 年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委任）

第 10 条　この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

1　この条例は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　この条例施行の際、現に市立大町山岳博物館条例（昭和 29 年条例第 18 号）第 5 条の規定により委

員として委嘱された者は、この条例第 10 条の規定により委嘱されたものとみなし、任期は、同条第 3 項の規定にかかわらず、昭和 58 年 3 月 31 日までとする。

附　則（昭和 61 年 3 月 24 日条例第 8 号）

この条例は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成元年 3 月 24 日条例第 7 号）

この条例は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 4 年 3 月 31 日条例第 8 号）

この条例は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 5 年 12 月 24 日条例第 32 号）

この条例は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 29 月条例第 13 号）

この条例は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 13 年 3 月 27 日条例第 13 号）

この条例は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 17 年 12 月 6 日条例第 30 号）

この条例は、平成 18 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 24 年 3 月 26 日条例第 3 号）

この条例は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 26 年 3 月 28 日条例第 8 号）

この条例は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

別表（第 5 条関係）

種別	区分	単位	観覧料
一般	大人	1 人	400 円
	高校生	〃	300
	小人	〃	200
団体 （30 人以上の場合をいう）	大人	〃	350
	高校生	〃	250
	小人	〃	150

備考　特別の資料を展示する場合は、1,000 円の範囲内においてその都度教育委員会が定める額とする。

2　市立大町山岳博物館規則

昭和 57 年 3 月 30 日
教育委員会規則第 3 号

（趣旨）
第 1 条　地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）第 33 条第 1 項及び市立大町山岳博物館条例（昭和 57 年条例第 12 号。以下「条例」という）の規定に基づき、市立大町山岳博物館（以下「博物館」という）の管理運営並びに市立大町山岳博物館協議会（以下「協議会」という）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。
（職務）
第 2 条　館長は、上司の命を受け、館を統括し、所属職員を指揮監督する。
2　学芸員は、館長の命を受け、博物館法（昭和 26 年法律第 285 号）第 4 条第 4 項に規定する職務を遂行する。
3　その他の職員は、館長の命を受け、職務を遂行する。
4　館長を補佐するため、副館長を置くことができる。副館長は、係長相当職をもって充てる。
5　嘱託員は、学術に関する職務に従事する。
（休館日）
第 3 条　博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、臨時に開館又は休館することができる。
(1)　毎週月曜日
(2)　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日の翌日（この日が月曜日に当たるときは、その翌日）
(3)　12 月 29 日から翌年 1 月 3 日までの日（前号に掲げる日を除く）
（開館時間）
第 4 条　博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、教育委員会が特に必要と認めたときは、これを変更することができる。
（観覧券の交付）
第 5 条　条例第 5 条の規定による観覧料の納付があったときは、観覧券（様式第 1 号）に領収印を押印し、交付するものとする。
（観覧料の減免）
第 6 条　条例第 7 条の規定による観覧料の減免を受けようとする者は、博物館観覧料減免申請書（様式第 2 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
（博物館資料の利用等）
第 7 条　条例第 8 条の規定により博物館の資料を利用しようとする者は、市立大町山岳博物館資料特別利用許可申請書（様式第 3 号）を教育委員会に提出し、承認を得なければならない。
2　前項の規定による資料の利用期間は、30 日以内とする。ただし、教育委員会が必要と認めた場合は、延長することができる。
（入館制限等）
第 8 条　教育委員会は、次の一に該当するときは、入館を拒否し、退館を命じ、又は許可を取り消し、その他必要な措置を講ずることができる。
(1)　公の秩序又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
(2)　管理上支障があると認められるとき。
(3)　その他教育委員会が必要と認めるとき。
（資料の寄贈及び寄託）
第 9 条　博物館は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。資料を寄贈及び寄託しようとする者は、博物館資料寄贈・寄託書（様式第 4 号）を教育委員会に提出するものとする。
2　寄託を受けた博物館資料は、寄託者の請求によりこれを返還する。
3　博物館は、寄託を受けた博物館資料が災害その他不可抗力によって滅失又は損傷した場合は、損害賠償の責を負わない。
4　寄贈又は寄託を受けた博物館資料は、一般の資料と同一の取扱いをするものとする。
（資料等の滅失・損傷）

第 10 条　館長は、博物館の資料、施設等が滅失又は損傷したときは、速やかに教育委員会に報告し、その指示を受けなければならない。

（協議会の組織）

第 11 条　協議会に、委員の互選による会長及び副会長各１名を置く。

2　会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

（協議会の会議）

第 12 条　協議会の会議は、館長の諮問により会長が招集する。

2　協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3　会議の議決は、出席委員の過半数の賛成がなければならない。

附　則

1　この規則は、昭和 57 年 6 月 5 日から施行する。

2　市立大町山岳博物館規程（昭和 29 年教育委員会規則第 9 号）及び市立大町山岳博物館協議会規程（昭和 29 年山岳博物館規程第 1 号）は、廃止する。

附　則（平成元年 3 月 31 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附　則（平成 9 年 12 月 26 日教委規則第 3 号）

この規則は、平成 10 年 1 月 1 日から施行する。

附　則（平成 12 年 3 月 30 日教委規則第 9 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

様式（省略）

3　大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会設置要綱

平成 17 年 7 月 7 日
教育委員会告示第 8 号

（趣旨）
第 1　大町市におけるライチョウ保護事業の計画を策定するため、大町市ライチョウ保護事業計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
（所掌事務）
第 2　委員会は、ライチョウの保護事業に関する計画の策定及びその他計画策定上必要な事項を検討するものとする。
（組織）
第 3　委員会は、委員 10 人以内で組織し、学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。
（任期）
第 4　委員の任期は、ライチョウ保護事業計画の策定業務が終了するまでとする。
第 5　委員会に委員長及び副委員長各 1 人を置き、委員が互選する。
2　委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
3　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。
（オブザーバー）
第 6　委員会にオブザーバーを置くことができる。
2　オブザーバーは、ライチョウの保護事業に関し、必要な意見を述べることができる。
（会議）
第 7　委員会の会議は、委員長が招集し、議長となる。
2　委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を求めることができる。
（事務局）
第 8　委員会の事務局は、市立大町山岳博物館に置く。
（補則）
第 9　この要綱に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附　則

この告示は、告示の日から施行する。

Ⅷ　山岳博物館の使命

平成 23 年 10 月

1　市立大町山岳博物館創立 60 周年を機に

市立大町山岳博物館は、昭和 26 年 11 月 1 日に創立し、今年で 60 周年を迎えた。昭和 24 年の設立趣旨には「地方文化の興隆」「信州文化の粋たる山岳文化の殿堂」「中部山岳国立公園の施設」「山岳の観光案内所としての博物館」「山岳博物館の立地条件を充たす大町」があげられており、当時の地域住民の博物館建設へ寄せた熱意と献身的な活動により山岳博物館が誕生した。

大町市は、山岳博物館創立 50 周年（平成 13 年）をきっかけに、21 世紀にふさわしい山岳文化の発展と創造をめざすべく「山岳文化都市宣言」を行った。

山岳博物館を誕生させた母なる北アルプスの雄大な姿は、将来、社会情勢がいかに変化し、科学技術が進歩しようとも、今と変わらず大町市民にとって常に身近な存在であり続けるであろう。

私たちは創立 60 周年を機に、あらためて設立当初の精神に立ち返り、「山岳文化都市宣言」の基本的理念を尊重しながら、これからの山岳博物館のあるべき姿を考えていく。

2　平成 24 年度からの市立大町山岳博物館の基本理念

市立大町山岳博物館の存在意義や社会に対する使命（責務）は次のとおりである。

大町市は、「美しく豊かな自然文化の風薫る　きらり輝くおおまち」をめざし、市民あるいは市内を訪れる方などのために、生涯学習の支援と推進や社会教育の充実と活性化を進めている。

これを達成するために、市立大町山岳博物館（以下、山岳博物館）は、「自然と人とが共生する「山岳文化都市」の形成につながるあらゆる活動を充実させ、地域の博物館としての機能の充実を図る。その核となる活動は、北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する調査研究を基礎として、それに関わる資料の収集・整理、保存・管理することであり、これらを活用した次のような教育普及活動を推進することである。

(1) 大町市や周辺地域の人たちのために

①郷土の自然や文化を見つめ直し、この地域ではこれまでどんなことがあったのか、今どうなっているのかを知り、これから将来はどうなるのかを考える場所を提供する。

②この地域にどのような価値があるかを知っていただき、郷土に誇りを持つことができる機会や場所を提供する。

③郷土の自然と文化に接し、心の豊かさを感じ、学ぶことの楽しさや大切さを味わって活動し、それを表現できるような機会や場所を用意する。

④豊かな自然環境を護り、自然と共存することの大切さを理解できるような場所や機会を提供する。

⑤博物館を中心にして、動植物園、遊歩道、園地、売店などいろいろな施設を充実させ、ここがゆっくりとくつろげて、楽しめる場所であるという考え方を大切にする。

(2) 大町市を訪れる人たちや北アルプスとその山麓地域の自然と文化を知りたい人たちのために

①観光客･登山者をはじめ北アルプスとその山麓地域の自然と文化について､関心を持つすべての人々の学習のきっかけをつくる手助けをする。

②「山岳文化都市」づくりの中核を担う施設として、北アルプス周辺のフィールドへといざなう窓口となる。

③大町市をはじめ、県内外にひろく「自然と人とが共生する山岳文化」の情報を発信し、さらなる山岳文化の創造を進める。

3　平成 24 年度からの山岳博物館の基本方針

(1) 調査研究の推進

博物館の立地条件を生かし、学術研究や社会教育機関としての機能を高めるため、国・県や各種研

究機関と連携した調査や研究を推進する。

①調査・研究の分野・範囲

北アルプスを中心とした山麓から高山までの地域と、それに関連した人文・自然科学分野の調査研究に重点をおく。

②情報収集

調査・研究のため、また利用者のさまざまな要求に応え、多くの人に資料や情報を利用していただけるように、国内外から多くの情報を集める。

③体制づくり

国や地方自治体、大学などの各種研究機関や市民と連携した調査研究を進める。

(2)資料の収集・整理、保管の推進

北アルプスとその山麓地域の自然や文化に関する情報発信の核となるよう、また、教育普及活動に活用できるよう、博物館で取り扱うことがらを定めて、それに沿った資料・情報の収集・整理、保管を推進する。

①収集・整理の推進

早急に記録にとどめ、保存が必要と考えられる資料を最優先に収集し、記録、整理をおこない、山岳博物館における情報発信の核とする。

②収集の範囲

山岳、特に北アルプスを中心とした山麓周辺から高山までの地域とそれらに関連した海外の人文・自然科学分野に関する資料（有形・無形を含めた事物や事象）の収集をおこなう。

③保存・管理の推進

収集された資料は適正に管理された環境おいて保管され、品質の劣化を防ぎ、将来の資産とする。

(3)調査研究の成果および収集資料の活用

調査・研究の成果や博物館の資料を十分に活かした活動を進める。

①調査・研究の成果活用

調査研究の成果を常設展示や企画展示に反映させ、各種の教育普及活動に有効活用する。

②収集・保管の成果活用

収集した資料を対象に調査研究を進めるとともに、展示の基礎資料とし、各種の教育普及活動にも有効活用する。

③保護・保全への貢献

調査研究の成果は、地域において学術的・歴史的価値の高いもの、あるいは環境・景観等の保全・保護に役立てる。

④体制づくり

山岳の自然と文化に関する各種情報を集め、山岳情報のネットワークをつくる。

(4)教育普及活動の推進

地域の恵まれた自然・文化に関するフィールドや博物館の資料・情報をわかりやすくて興味が持てるように示す。また、それを通して新しい発見、驚き、関心が得られるよう内容の工夫に努め、新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

①生涯教育・社会教育の推進

博物館の資料や、山麓から高山にかけての恵まれたフィールド環境を生かし、子供から大人まで幅広く参加できるような魅力ある活動を展開する。そして、それらの活動が、知的欲求を一時的に充たすだけでなく､生涯にわたって持続できるきっかけづくりになるよう内容の工夫に努め､新たな発想、創造へと結びつくような活動を推進する。

②学社連携・融合の推進

学校と博物館を結んだ事業を積極的におこない、児童・生徒・(先生）の学習の場とし、関心を持つきっかけづくりをする。

③協働の推進

国や県をはじめとする大学や研究所・博物館・動植物園など、国内外の機関と連携した活動を展開するとともに、地域の情報を取り入れて市民との協働の活動を推進する。

(5)付属園（動植物園）の充実

付属園（動植物園）では貴重な野生動植物を守り、増やしたり、研究をしたりしながら、北アルプ

スの山麓から高山までの生物を栽培･飼育し､生きている姿を見てもらうという考え方を大切にする。

①生体展示

生きている姿と命の大切さがわかる展示をめざす。

②教育普及への活用

飼育栽培している動植物を活用した教育普及活動をする。

③傷病鳥獣の救護

傷ついたり病気になった野生動物を救護し、野生に戻す努力をするとともに、野生に戻せない野生動物の長期飼育をする。

④希少種の保護

希少野生動植物の飼育・栽培、繁殖・増殖と調査研究に努める。

⑤施設整備の充実

付属園の目的を達成させるため、施設の整備を順次進める。

Ⅸ　施設

1　敷地面積

41,575.69 ㎡（都市公園としての開設面積）市有地：38,493.15 ㎡、民有地：3,082.54 ㎡

2　本館建物

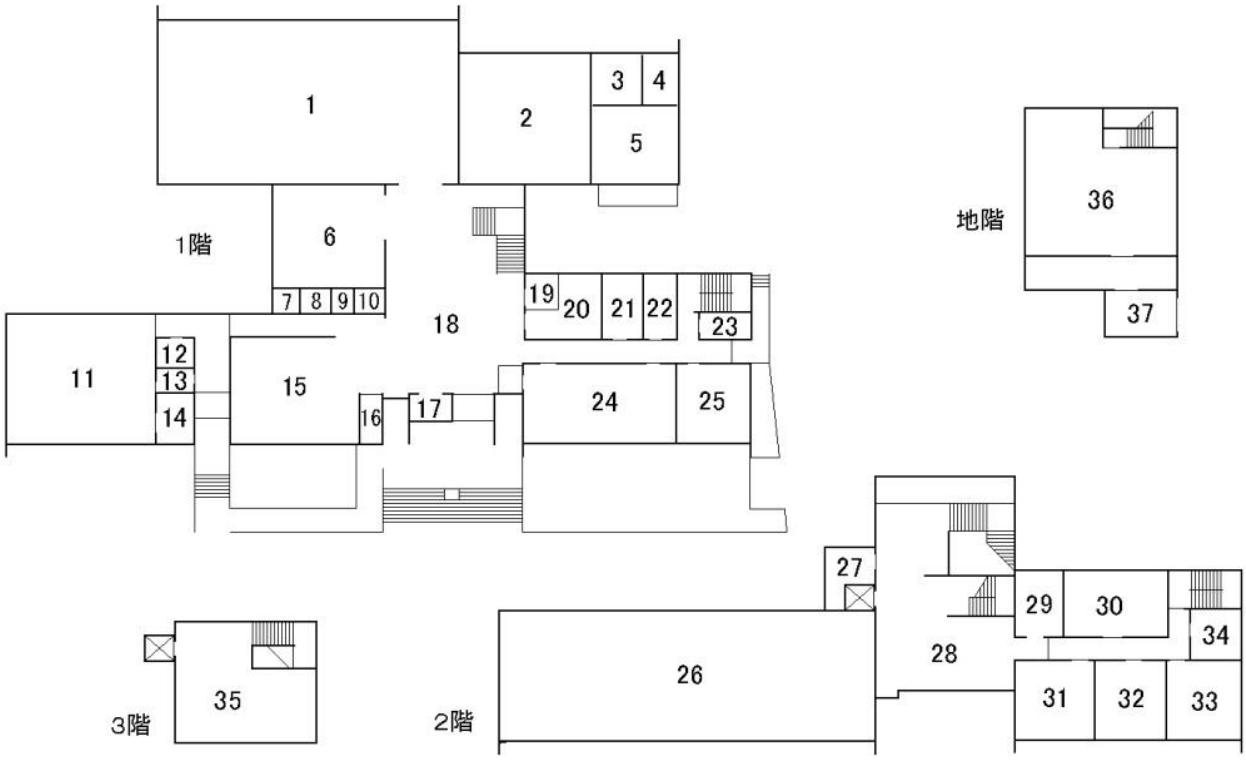
(1) 構造：鉄筋コンクリート造　地上3階 地下1階
(2) 竣工：昭和57年5月31日竣工
(3) 面積：建築面積　　1,280.9 ㎡　　延べ床面積2,139.4 ㎡
(4) 床面積表　　（単位：㎡）

1階　1,177.4					
名　称		面積	名　称		面積
1	展示室	290.0	14	準備室	9.1
2	収蔵庫	104.0	15	ｶﾌｪ･ｼｮｯﾌﾟ	74.2
3	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	16.4	16	授乳室	6.7
4	燻蒸室	12.3	17	荷物置場	14.4
5	荷解作業室	41.3	18	ホール	116.9
6	特別展示室	70.4	19	多目的ﾄｲﾚ	6.5
7	EV機械室	6.0	20	女子ﾄｲﾚ	22.5
8	倉　庫	3.5	21	書　庫	16.7
9	倉　庫	3.0	22	更衣室	14.6
10	E.V	5.1	23	倉　庫	8.8
11	講　堂	110.2	24	事務室	69.6
12	ﾄｲﾚ	8.1	25	休憩室	32.5
13	倉　庫	5.4	廊下、階段等		109.2

2階　686.1					
名　称		面積	名　称		面積
26	展示室	290.0	31	研究室	34.8
27	ﾊﾟｯｹｰｼﾞ室	14.9	32	資料庫	34.8
28	展示室	113.6	33	図書室	34.8
29	男子ﾄｲﾚ	18.2	34	資料庫	16.0
30	収蔵庫	42.1	廊下階段等		86.9

3階　116.7				
名　称		面積	名　称	面積
35	展示室	94.6	階段	22.1

地階　159.2				
名　称		面積	名　称	面積
36	機械室	118.8	階段	17.4
37	車　庫	23.0		



3　付属施設

(1) 付属園（本館隣）

①施設の概要　　敷地面積：39,875.92 ㎡

②建物の概要（建設年度順）　※B-5・8・10 については放飼場の面積を除く

施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)			施設名・構造・建築面積(築年度)		
B-1	CB 造	28.38(S38→S55 移設)	A-9	CB 造	15.70(S57)解体	B-12	鉄骨造	88.84(H7)
B-2	CB 造	13.93(S38→S55 移設)	B-5	CB 造	9.24(S60)解体	A-10	木造	52.00(H21)
A-1	CB 造	33.48 (S42,43)解体	B-6	ﾊﾟﾈﾙ造	18.91(S60,61)	A-11	木造	42.00(H27)
A-3	CB 造	15.24 (S48)解体	B-7	CB 造	47.25(S61)	A-12	木造	37.50(H27)
A-5	CB 造	33.44 (S49)解体	B-8	CB 造	26.92(H1)	A-13	木造	21.00(H27)
A-8	CB 造	11.56 (S52)解体	B-9	CB 造	34.82(H3,4)			
B-3	CB 造	22.62(S53)	B-10	CB 造	5.20(H3)			
B-4	ﾊﾟﾈﾙ造	38.13(S54･55)	B-11	鉄骨造	62.24(H4)			

(2) 山岳図書資料館（本館隣）

①施設の概要

・構造・規模：鉄骨造　地上 2 階

・竣工・開館：平成 24 年 3 月 2 日竣工　平成 24 年 4 月 20 日開館

・各　面　積：敷地面積 498.21 ㎡　建築面積 59.96 ㎡

延床面積 117.45 ㎡（1 階 58.725 ㎡、2 階 58.725 ㎡）

・設備・備品：ハンドル式移動書架 18 基　固定式書架（各種）29 基　ほか

Ⅹ　利用案内（平成 29 年 3 月 31 日現在）

1　開館時間　午前 9 時～午後 5 時（入館は午後 4 時 30 分まで）

2　休館日　　毎週月曜日、国民の祝日・振替休日の翌日、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）
※月曜日が祝日・休日の場合は開館し、翌日休館　7 月・8 月は無休

3　交通　　公共機関　JR 信濃大町駅から　タクシー5 分、徒歩 25 分
車　長野自動車道安曇野 IC から 40 分
（北アルプスパノラマロード経由 白馬方面へ 28 ㎞）
※博物館前に無料駐車場（普通車 30 台・大型バス 5 台収容）

4　観覧料

区　分	大　人	高校生	小・中学生
個　人	400 円	300 円	200 円
団　体（30 名様以上）	350 円	250 円	150 円

5　ユニバーサルデザイン
入口スロープ、入口階段手すり、玄関自動ドア、多目的トイレ、授乳室、車イス対応エレベーター、貸出用車イス・ベビーカー、アシスタントドッグ同伴可能

6　所在地および連絡先
〒398-0002　長野県大町市大町 8056－1
（標高：766m、経緯：北緯 36 度 30 分、東経 137 度 52 分）
TEL：0261-22-0211／FAX：0261-21-2133
E-mail：sanpaku@city.omachi.nagano.jp
URL：http://www.omachi-sanpaku.com

市立大町山岳博物館　平成 28 年度　年報

平成 29 年 8 月 30 日発行
編集･発行　市立大町山岳博物館
〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1
TEL:0261-22-0211/FAX:0261-21-2133
印刷･製本　北辰印刷㈲
〒398-0002 長野県大町市大町桜田町 3,871-1
TEL:0261-22-3030　/　FAX:0261-22-2010

この印刷物は再生紙を使用し、石油溶剤の代わりに大豆油を使用した大豆インキで印刷しています。